

平成二十六年厚生労働省令第二十号

公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令 抄

公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三号）並びに公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係省令の整備等に関する政令（平成二十六年政令第七十三号）及び公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令（平成二十六年政令第七十四号）の施行に伴い、並びに関係法律及び関係政令の規定に基づき、公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令を次のように定める。

第一章 関係省令の整備等（第一条―第十五条）

第二章 経過措置（第十六条―第六十五条）

附則

第一章 関係省令の整備等（厚生年金基金規則の廃止）

第一条 厚生年金基金規則（昭和四十一年厚生省令第三十四号）は、廃止する。

第二章 経過措置（定義）

第十六条 この章及び附則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 改正前厚生年金保険法 公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（以下「平成二十五年改正法」という。）第一条の規定による改正前の厚生年金保険法（昭和二十九年法律第五十五号）をいう。
二 改正後厚生年金保険法 平成二十五年改正法第一条の規定による改正後の厚生年金保険法をいう。
三 改正前確定給付企業年金法 平成二十五年改正法第二条の規定による改正前の確定給付企業年金法（平成十三年法律第五十号）をいう。

四 改正後確定給付企業年金法 平成二十五年改正法第二条の規定による改正後の確定給付企業年金法をいう。
五 改正後確定拠出年金法 平成二十五年改正法附則第二百二条の規定による改正後の確定拠出年金法（平成十三年法律第八十八号）をいう。
六 廃止前厚生年金基金令 公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令（以下「平成二十六年整備政令」という。）第一条の規定による廃止前の厚生年金基金令（昭和四十一年政令第三百二十四号）をいう。
七 改正前確定給付企業年金法施行令 平成二十六年整備政令第二条の規定による改正前の確定給付企業年金法施行令（平成十三年政令第四百二十四号）をいう。
八 改正後確定給付企業年金法施行令 平成二十六年整備政令第二条の規定による改正後の確定給付企業年金法施行令をいう。
九 旧厚生年金基金 平成二十五年改正法附則第三条第十号に規定する旧厚生年金基金をいう。
十 存続厚生年金基金 平成二十五年改正法附則第三条第十一号に規定する存続厚生年金基金をいう。
十一 厚生年金基金 平成二十五年改正法附則第三条第十二号に規定する厚生年金基金をいう。
十二 存続連合会 平成二十五年改正法附則第三条第十三号に規定する存続連合会をいう。
十三 確定給付企業年金 平成二十五年改正法附則第三条第十四号に規定する確定給付企業年金をいう。
十四 連合会 平成二十五年改正法附則第三条第十五号に規定する連合会をいう。
（存続厚生年金基金に係る廃止前厚生年金基金規則等の効力等）
第十七条 存続厚生年金基金については、第一条の規定による廃止前の厚生年金基金規則（以下「廃止前厚生年金基金規則」という。）第一章（第一条、第十九条の二及び第六十六条を除く。）及び第三章（第七十四条の三第三項及び第七項、第七十五条第一項（第一号及び第七号に係る部分に限る。）、第七十六条、第八十一条から第八十三条まで並びに第八十八条を除く。）

並びに附則第二項及び第七項の規定については、なおその効力を有する。この場合において、次の表の上欄に掲げる廃止前厚生年金基金規則の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。

Table with 3 columns: Article/Section, Old Text, New Text. Contains details of amendments to various laws and regulations regarding pension systems.

Table with 3 columns: Article/Section, Copy Type, Copy Content. Specifies which parts of the laws and regulations are to be copied and in what format.

<p>第二項 第一号</p>	<p>第二十四号</p>	<p>第三十号</p>	<p>第三十四号</p>	<p>第三十号 若しくは第六十五号第六項又は確定給付企業年金法（平成十三年法律第五十号）第百十五号の二第二項若しくは</p>	<p>（昭和四十二年法律第八十一号）第三十条の七第三項 本人確認情報（同法第三十条の五第一項に規定する本人確認情報をいう。）</p>
<p>第三十号の九</p>	<p>機構保存本人確認情報</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百四十四号の三第六項、平成二十五年改正法附則第五十三号第六項若しくは第五十四号第二項若しくは平成二十五年改正法附則第六十二号第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>	<p>第五十九号 年金給付等積立金の額</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五十三号第六項若しくは第五十四号第二項若しくは平成二十五年改正法附則第六十二号第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>
<p>付企業年金法 とされた改正前確定給付企業年金法</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百四十四号の三第五項に規定する脱一時金相当額をいう</p>	<p>平成二十五年改正法附則第六十二号第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>	<p>平成二十五年改正法附則第六十二号第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>	<p>第五十九号又は平成二十五年改正法附則第五十四号第一項若しくは第五十七号第一項 年金給付等積立金の額（平成二十五年改正法附則第十一号第一項に規定する年金給付等積立金の額をいう。以下同じ。）</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五十三号第六項若しくは第五十四号第二項若しくは平成二十五年改正法附則第六十二号第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十五号第五項</p>
<p>第百九号第一項の規定に基づき同法第二十四条に規定する企業年金が基金となることについての認可を含む。第三項において同じ。）</p>	<p>被保険者（被保険者（被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十四号法律第六十三号）第一条の規定による改正後の法律第二条の五第一項第一号に規定する第一号厚生年金被保険者に限る。）</p>	<p>平成二十五年改正法附則第四十号に規定する</p>	<p>平成二十五年改正法附則第四十号に規定する</p>	<p>第十一号の三十一 額及び構成割合を厚生労働大臣に報告</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五十五号第三項の規定による改正前厚生年金保険法第百四十四号の三第二項の規定による老齢年金給付の支給に關する権利義務の移転の申出は、甲基金の中途脱退者に係る次の各号に掲げる事項を記載した書類又はこれら事項を記録した磁気ディスクとする。</p>
<p>一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号 二 甲基金の加入員の資格の取得及び喪失の日 三 平成十五年四月一日前の加入員たる被保険者であった期間の報酬標準給与の月額及び賞与標準給与の月額並びに被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の報酬月額 四 平成十五年四月一日以後の加入員たる被保険者であった期間の報酬標準給与の月額及び賞与標準給与の月額並びに被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の報酬月額及び標準賞与額 五 乙基金が老齢年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において支給すべきこととなる老齢年金給付の額 六 前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。 一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」という。） イ 送信者の使用に係る電子計算機と受信者</p>	<p>一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号 二 甲基金の加入員の資格の取得及び喪失の日 三 平成十五年四月一日前の加入員たる被保険者であった期間の報酬標準給与の月額及び賞与標準給与の月額並びに被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の報酬月額 四 平成十五年四月一日以後の加入員たる被保険者であった期間の報酬月額及び標準賞与額 五 乙基金が老齢年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において支給すべきこととなる老齢年金給付の額 六 前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。 一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」という。） イ 送信者の使用に係る電子計算機と受信者</p>	<p>平成二十五年改正法附則第十一号第一項に規定する年金給付等積立金の額</p>	<p>平成二十五年改正法附則第十一号第一項に規定する年金給付等積立金の額</p>	<p>第十一号の三十一 額及び構成割合を厚生労働大臣に報告</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五十五号第三項の規定による改正前厚生年金保険法第百四十四号の三第二項の規定による老齢年金給付の支給に關する権利義務の移転の申出は、甲基金の中途脱退者に係る次の各号に掲げる事項を記載した書類又はこれら事項を記録した磁気ディスクとする。</p>

<p>月額及び標準 賞与額 五 乙基金が 老齢年金給付 の支給に關す る権利義務を 承継した場合 において支給 すべきことと なる老齢年金 給付の額 2 法第四十 四條の三第 五項の規定に よる脱退一時 金相当額の移 換の申出があ つたときは、 甲基金は、前 項に定める書 類又は磁気デ イスクに併せ て、次の各号 に掲げる事項 を記載した書 類又はこれら の事項を記録 した磁気デ イスクを乙基 金に提出する ものとする。 一 脱退一時 金相当額 二 脱退一時 金相当額の算 定の基礎とな つた期間</p>	<p>の使用に係る電子計算 機とを接続する電気通 信回線を通じて送信し、 受信者の使用に係る電 子計算機に備えられた ファイルに記録する方 法 ロ 送信者の使用に係 る電子計算機に備えら れたファイルに記録さ れた書面により通知す べき事項を電気通信回 線を通じて受信者の閱 覧に供し、当該受信者 の使用に係る電子計算 機に備えられたファイ ルに当該事項を記録す る方法 二 電磁的記録媒体 (電磁的記録(電子的方 式、磁氣的方式その他 人の知覚によつては認 識することができない 方式で作られる記録で あつて、電子計算機に よる情報処理の用に供 されるものをいう。)に 係る記録媒体をいう。 以下同じ。)をもつて調 製するファイルに書面 により通知すべき事項 を記録したものを交付 する方法 三 書面を交付する方 法 3 平成二十五年改正 法附則第五條第一項の 規定によりなおその効 力を有するものとされ た改正前厚生年金保 険法第四十四條の三第 五項の規定による脱退 一時金相当額の移換の 申出があつたときは、 甲基金は、前二項の規 定による提出を行うと ともに、乙基金に対し、</p>	<p>の使用中途脱退 者に係る次の 事項を掲げる 各号に掲げる 事項を記載し た書類又はこ れらの事項を 記録した磁気 ディスクを、 企業型記録関 連運管管理機 関等(確定拠 出年金法第十 七條に規定す る企業型記録 関連運管管理 機関等をいう。 以下同じ。)又 は国民年金 基金連合会(同 法第二十五條 に規定する連 合会をいう。以 下同じ)に対し 、当該中途脱 退者に係る次 の各号に掲げ る事項を記載 し、若しくは 記録した書面 若しくは電磁 的記録媒体を 提出し、又は これら事項を 電子情報処理 組織を使用す る方法により 提供すること とする。 一 脱退一時金 相当額 二 脱退一時金 相当額の算定 の基礎となつ た期間</p>
<p>第五 十六 條の 二第 二項 第三 号及 び第 四号</p>	<p>第四 十九 條の 六</p>	<p>次の各号に掲げる事項 を記載し、若しくは記 録した書面若しくは電 磁的記録媒体を提出し、 又はこれらの事項を電 子情報処理組織を使用 する方法により提供す るものとする。 一 脱退一時金相当額 二 脱退一時金相当額 の算定の基礎となつた 期間 企業型記録関連運管管 理機関等(確定拠出年 金法第十七條に規定す る企業型記録関連運管 管理機関等をいう。以 下同じ。)又は国民年 基金連合会(同法第二 十五條に規定する連 合会をいう。以下同じ)に対し、当該中途脱 退者に係る次の各号に 掲げる事項を記載し、 若しくは記録した書面 若しくは電磁的記録媒 体を提出し、又はこれ らの事項を電子情報処 理組織を使用する方法 により提供する</p>
<p>第三十 二條 の 二第 二項 第三 号及 び第 四号</p>	<p>第六 十五 條第 一第 二項 第三 号及 び第 四号</p>	<p>器を設置する 方法 四 その他周 知が確実に行 われる方法 五 その他周知が確実 に行われる方法 平成二十五年改正法附 則第八條に規定する責 任準備金相当額 厚生年金保険の実施者 の管掌者 平成二十五年改正法附 則第八條に規定する責 任準備金相当額 厚生年金保険の実施者 の管掌者</p>
<p>第三十 二條 の 二第 二項 第三 号及 び第 四号</p>	<p>第六 十五 條第 一第 二項 第三 号及 び第 四号</p>	<p>器を設置する 方法 四 その他周 知が確実に行 われる方法 五 その他周知が確実 に行われる方法 平成二十五年改正法附 則第八條に規定する責 任準備金相当額 厚生年金保険の実施者 の管掌者 平成二十五年改正法附 則第八條に規定する責 任準備金相当額 厚生年金保険の実施者 の管掌者</p>
<p>第一 十 一第 一第 二第 三第 四第 五第 六第 七第 八第 九第 十第 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百</p>	<p>第六 十 六第 一第 二第 三第 四第 五第 六第 七第 八第 九第 十第 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百</p>	<p>一条に規定するリスク分担 型企業年金をいう。)の場 合にあつては当該脱退一時 金相当額の額に移換を受 けたときの調整率(同令第 二十五條第四号に規定する 調整率をいう。以下この項 において同じ。)及び一時 金の支給の請求をしたとき の調整率に応じて規約で定 めるところにより算定した 率を乗じた額) 公的年金制度の健全性及び 信頼性の確保のための厚生 年金保険法等の一部を改正 する法律(平成二十五年法 律第六十三号。以下「平成 二十五年改正法」という。) 附則第八條に規定する責任 準備金相当額 平成二十五年改正法附則第 八條に規定する責任準備金 相当額 厚生年金保険 法第六 十一 條第一 項に規 定する 責任準 備金に 相当す る額 厚生年 金保 險法 第六 十一 條第一 項に規 定する 責任準 備金に 相当す る額 平成二十五年改正法附則第 八條に規定する責任準備金 相当額 厚生年金基金 三條第十二号に規定する厚 生年金基金</p>

<p>二項第一号</p> <p>3 存続厚生年金基金については、第三条の規定による改正前の確定拠出年金法施行規則（以下「改正前確定拠出年金法施行規則」という。）第六十一条第一項（第五号に係る部分に限る。）、第八十一条第一項（第二号に係る部分に限る。）、第十一条第一項（第二号及び第三号イに係る部分に限る。）、第二十一条第一項（第二号に係る部分に限る。）、第二十六条第一項（第五号に係る部分に限る。）、第三十条第一項（第一号に係る部分に限る。）、第三十一条、第三十九条第二項（第二号に係る部分に限る。）、第四十五条第一項（第二号に係る部分に限る。）、第五十六条第一項（第十二号に係る部分に限る。）、第六十二条第四項並びに第七十条第二項（第二号ハ（一）に係る部分に限る。）の規定は、なおその効力を有する。この場合において、次の表の上欄に掲げる改正前確定拠出年金法施行規則の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。</p>	<p>第六十一条第一号 被用者年金被保険者等</p> <p>第一号等厚生年金被保険者（年金制度の機能強化のための国民年金法等の一部を改正する法律（令和二年法律第四十号）第二十二條の規定による改正後の法第二條第六項に規定する第一号等厚生年金被保険者をいう。）</p>	<p>第十條第一號 若しくは第七十四條の規定</p> <p>算入された期間並びに当該算入された期間の開始年月及び終了年月事項（当該企業型記録関連運管管理機関等の行い記録関連業務に係る事項に限る。）</p>
<p>第二條第一號 若しくは第七十四條の規定</p>	<p>第五十四條 第五十四條の規定により企業年金制度若しくは退職手当の資産からその一部は移換が行われたとき又は法第五十四條の二若しくは第七十四條の二</p> <p>算入された期間 算入された期間並びに当該算入された期間の開始年月及び終了年月事項（当該個人型記録関連運管管理機関の行い記録関連業務に係る事項に限る。）</p>	<p>第四條 存続厚生年金基金については次の表の上欄に掲げる確定給付企業年金法施行規則の規定を適用する場合においては、同表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。</p>
<p>へへの解約手当金に相当する額の移換</p>	<p>年改正法」という。）附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法第二條の規定による改正前の法（以下「改正前確定給付企業年金法」という。）第七條第一項の規定による加入者等に係る給付の支給に関する権利義務の移換</p> <p>平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第十條の二第三項の規定による加入員及び加入員であった者に係る給付（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法第一條の規定による改正前の厚生年金保険法（昭和二十九年法律第五十五號）第三百三十二條第二項に規定する額に相当する給付（以下「厚生年金代行給付」という。）を除く。）の支給に関する権利義務の承継</p> <p>平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第十一條第二項の規定による加入員及び加入員であった者に係る給付（厚生年金代行給付を除く。）の支給に関する権利義務の承継</p>	<p>第十條 企業退職金共済法第三十一條の四第一項の規定による資産管理運用機関への解約手当金に相当する額の移換</p> <p>公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三號）以下「平成二十五年改正法」という。）</p>
<p>する額の移換</p> <p>六年厚生労働省令第二十號（第十七條第四項の規定により読み替えて適用する第五條第一号又はワに掲げる事由</p>	<p>七 中小企業退職金共済法第三十一條の四第一項の規定による資産管理運用機関等への移換 当該移換に関する申出に係る共済契約者であった事業主</p> <p>八 平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第十條の二第三項の規定による加入員及び加入員であった者に係る給付（厚生年金代行給付を除く。）の支給に関する権利義務の承継 当該加入員又は加入員であった者を使用し、又は使用することとなつた実施事業所の事業主</p> <p>九 平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第十一條第二項の規定による加入員及び加入員であった者に係る給付（厚生年金代行給付を除く。）の支給に関する権利義務の承継 当該加入員又は加入員であった者を使用し、又は使用することとなつた実施事業所の事業主</p>	<p>第五條 存続厚生年金基金については次の表の上欄に掲げる確定拠出年金法施行規則の規定を適用する場合においては、同表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。</p> <p>第十條の二 若しくは第七十四條の規定</p> <p>また公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省令の整備等及び経過措置に関する省令（平成二十六年厚生労働</p>

する申出をするときは、当該申出に係る加入員について、次の各号に掲げる事項を記載した申出書を存続厚生年金基金に提出しなければならぬ。

- 一 氏名及び生年月日
 - 二 加入員番号
 - 三 使用されている事業所の名称及び所在地
 - 四 産前産後休業を開始した年月日
 - 五 産前産後休業に係る子の出産予定年月日
 - 六 多胎妊娠の場合にあつては、その旨
 - 七 申出に係る加入員が産前産後休業に係る子を出産した場合にあつては、当該子の氏名及び生年月日
 - 八 産前産後休業を終了する年月日（次項において「産前産後休業終了予定日」という。）
- 2 平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百三十九条第九項において準用する同条第七項若しくは第八項の規定により掛金の額又は平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百四十条第十項において準用する同条第八項の規定により徴収金の額が免除された加入員を使用する存続厚生年金基金の設立事業所の事業主であつて、平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百三十九条第九項において準用する同条第七項又は第八項に規定する申出をしたものは、前項各号に掲げる事項に変更があつたとき又は当該加入員が産前産後休業終了予定日の前日までに産前産後休業を終了したときは、速やかに、その旨を記載した届書を存続厚生年金基金に提出しなければならない。
- （存続厚生年金基金に係る受給権者の所在不明の届出等に関する経過措置）
- 第十七条の五** 存続厚生年金基金が支給する年金たる給付の受給権を有する者（以下この条において「受給権者」という。）の属する世帯の世帯主その他その世帯に属する者は、当該受給権者の所在が一月以上明らかでないときは、規約の定めるところにより、次の各号に掲げる事項を記載した届書を存続厚生年金基金に提出しなければならない。
- 一 所在不明となつた受給権者の氏名及び性別
 - 二 受給権者と同一世帯である旨
 - 三 年金証書の番号

2 存続厚生年金基金は、前項の届書が提出されたときには、規約の定めるところにより、当該受給権者に対し、自ら署名した書面その他の生存を明らかにすることができるとする書面の提出を求めることができる。

- 3 前項の規定により同項に規定する書面の提出を求められた受給権者は、規約の定めるところにより、当該書面を存続厚生年金基金に提出しなければならない。
- （加入員等の個人情報の取扱い）
- 第十七条の六** 存続厚生年金基金は、その業務に關し、加入員及び加入員であつた者（以下この条において「加入員等」という。）の氏名、性別、生年月日、住所その他の加入員等の個人に關する情報を収集し、保管し、又は使用するに当たつては、その業務の遂行に必要な範囲内で当該個人に關する情報を収集し、保管し、及び使用するものとする。ただし、本人の同意がある場合その他正当な事由がある場合は、この限りでない。
- 2 存続厚生年金基金は、加入員等の個人に關する情報を適正に管理するために必要な措置を講ずるものとする。
- （物納に関する準用規定）
- 第十八条** 第十七条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法施行規則第百三十一条から第百三十四条までの規定は、平成二十五年改正法附則第九条第一項において平成二十五年改正法附則第五條とされた改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を準用する場合、平成二十五年改正法附則第十八条第一項において平成二十五年改正法附則第十五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を準用する場合、平成二十五年改正法附則第十五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を準用する場合、平成二十五年改正法附則第二十五条第一項において平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を準用する場合、平成二十五年改正法附則第二十七条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十八条第一項において準用する改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を適用する場合、平成二十五年改正法附則第二十八条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金

保険法附則第三十八条第一項において準用する改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を適用する場合及び平成二十五年改正法附則第二十八條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十八條第一項において準用する改正前確定給付企業年金法第百三十四条の規定を適用する場合について準用する。

- （責任準備金相当額の減額の申請）
- 第十九条** 平成二十五年改正法附則第十一条第一項の規定による責任準備金相当額（平成二十五年改正法附則第八條に規定する責任準備金相当額をいう。以下同じ。）の減額の申請（以下「自主解散型減額申請」という。）及び平成二十五年改正法附則第二十条第一項の規定による責任準備金相当額の減額の申請（以下「清算型減額申請」という。）は、代議員会において代議員の定数の三分の二以上の多数により議決し、申請書に、次の各号に掲げる書類を添付して厚生労働大臣に提出することによつて行ふものとする。
- 一 自主解散型減額申請又は清算型減額申請を申請日（以下この条及び次条において「減額申請日」という。）前一月以内現在における財産目録及び貸借対照表
 - 二 前号の財産目録及び貸借対照表を作成する日を解散する日とみなして、自主解散型減額申請にあつては平成二十五年改正法附則第十条第七項の規定、清算型減額申請にあつては平成二十五年改正法附則第二十条第三項の規定の適用がないものとして計算した責任準備金相当額及びその算出の基礎となる事項を示した書類
 - 三 次のイ又はロのいずれかに掲げる書類
 - イ 減額申請日の属する月前二年間において平成二十六年経過措置政令第三条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第三十三条の規定により算定された額の掛金を徴収していることを証する書類
 - ロ 次条第一項の規定に基づき計算した率及びその算出の基礎となる事項を示した書類
 - 四 年金たる給付又は一時金たる給付に要する費用を抑制するために必要な措置を講じていることを証する書類
 - 五 第一号において財産目録及び貸借対照表を作成する日を平成二十六年経過措置政令第十

条第一項第一号の解散した日（清算型減額申請にあつては、平成二十五年改正法附則第十九條第九項の規定により解散した日）とみなして平成二十六年経過措置政令第十条の規定に基づき計算した額及びその算出の基礎となる事項を示した書類

（自主解散型基金等の加入員の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額に対する掛金の総額の比率の計算方法）

- 第二十条** 平成二十六年経過措置政令第九條第一号、第十二條第一号、第十三條第一号、第二十條第一号、第二十三條第一号及び第二十四條第一号の当該基金（平成二十六年経過措置政令第九條第一号、第十二條第一号及び第十三條第一号イにあつては自主解散型基金（平成二十五年改正法附則第十一條第一項に規定する自主解散型基金をいう。以下同じ。）、平成二十六年経過措置政令第二十条第一号、第二十三條第一号及び第二十四條第一号イにあつては清算型基金（平成二十五年改正法附則第十九條第一項に規定する清算型基金をいう。以下同じ。）をいう。以下この項において同じ。）の加入員の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額に対する掛金の総額（免除保険料額（平成二十六年経過措置政令第九條第一号に規定する免除保険料額をいう。以下同じ。）に相当する額を除く。次項及び次条において同じ。）の比率として厚生労働省令で定めるところにより計算した率は、第一号に掲げる率に第二号に掲げる率を乗じて得た率から第三号に掲げる率を控除して得た率とする。
- 一 減額申請日（平成二十六年経過措置政令第九條第一号、第十二條第一号、第十三條第一号イ、第二十條第一号、第二十三條第一号及び第二十四條第一号イに規定する申請をした日）をいう。以下この号において同じ。）の属する月前二年間に当該基金が徴収した掛金の総額（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十二條第一項の認可を受けた基金にあつては、掛金の額と当該認可を受けた基金に於ては、掛金の額と当該認可を受けた基金に於ては、掛金の額と見込まれる免除保険料額を合計した額の総額）を、当該基金の加入員又は加入員であつた者に係る減額申請日の属する月前二年間の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額で除して得た率

二一・四（平成二十六年経過措置政令第十三条第一号イ又は第二十四条第一号イの規定に基づき率を計算する場合にあっては、一・三六）を、当該基金における平均的な老齢年金給付の額（平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十二条第一項の認可を受けた基金にあっては、当該認可を受けなかったとした場合に支給していたと見込まれる老齢年金給付の額）の当該基金における平均的な代行給付（平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百三十二条第二項に規定する額に相当する部分の老齢年金給付をいう。）の額に対する比率で除して得た率

三 第一号の期間における当該基金の免除保険料額の総額を、同号の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額で除して得た率

2 前項の規定は、平成二十六年経過措置政令第十八条第三項第一号の当該存続厚生年金基金の加入員の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額に対する掛金の総額の比率として厚生労働省令で定めるところにより計算した率について準用する。この場合において、前項第一号中「減額申請日（平成二十六年経過措置政令第九条第一号、第十二条第一号、第十三条第一号イ、第二十条第一号、第二十三条第一号及び第二十四条第一号イに規定する申請をした日）」とあるのは「指定日（平成二十六年経過措置政令第十八条第二項第一号に規定する指定日）」と、「減額申請日」とあるのは「指定日」と、同項第二号中「一・四（平成二十六年経過措置政令第十三条第一号イ又は第二十四条第一号イの規定に基づき率を計算する場合にあっては、一・三六）」とあるのは「一・四」と読み替えるものとする。

（平成二十一年度及び平成二十三年度における全ての厚生年金基金の加入員の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額に対する掛金の総額の比率）

第二十一条 平成二十六年経過措置政令第九条第一号、第十二条第一号、第十三条第一号イ、第十八条第三項第一号、第二十条第一号、第二十三条第一号及び第二十四条第一号イの平成二十一年度及び平成二十三年度における全ての厚生年金基金の加入員の標準報酬月額額の総額及び標準賞与額の総額に対する掛金の総額及び標準賞与額の総額に対する比率は、千分の二十六とする。

標準賞与額の総額に対する掛金の総額の比率として厚生労働省令で定める率は、千分の二十六とする。

（自主解散型納付計画等の承認の申請）

第二十二條 存続厚生年金基金による平成二十五年改正法附則第十二条第一項（平成二十六年経過措置政令第十六条第三項の規定により読み替えて適用する場合を含む。以下同じ。）に規定する自主解散型納付計画（以下「自主解散型納付計画」という。）及び平成二十五年改正法附則第二十一条第一項（平成二十六年経過措置政令第二十八条第三項の規定により読み替えて適用する場合を含む。以下同じ。）に規定する清算型納付計画（以下「清算型納付計画」という。）の承認の申請は、代議員会において代議員の定数の三分の二以上の多数により議決し、申請書に、当該存続厚生年金基金に係る自主解散型納付計画又は清算型納付計画（以下「自主解散型納付計画等」という。）及び次の各号に掲げる書類を添付して、厚生労働大臣に提出することによって行うものとする。

- 一 平成二十五年改正法附則第十二条第一項又は第二十一条第一項の規定による申請をした日（以下「納付猶予申請日」という。）前一月以内現在における財産目録及び貸借対照表
- 二 前号において財産目録及び貸借対照表を作成する日を解散する日とみなして計算した責任準備金相当額及びその算出の基礎となる事項を示した書類
- 三 次のイ又はロのいずれかに掲げる書類
 - イ 納付猶予申請日の属する月前二箇年において平成二十六年経過措置政令第三条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第三十三条の規定により算定された額の掛金を徴収していたことを証する書類
 - ロ 第二十条第一項の規定に基づき計算した率及びその算出の基礎となる事項を示した書類
- 四 年金たる給付又は一時金たる給付に要する費用を抑制するために必要な措置を講じていることを証する書類

2 存続厚生年金基金は、自主解散型納付計画等の承認の申請をする場合には、当該自主解散型納付計画等の承認の申請に伴う平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法

第百十五条第二項の規定による規約の変更の認可の申請を、当該自主解散型納付計画等の承認の申請を行う日までに行わなければならない。

3 存続厚生年金基金の設立事業所の事業主（当該存続厚生年金基金を共同して設立している場合）にあっては、当該存続厚生年金基金を設立している各事業主（平成二十六年経過措置政令第十六条第一項及び第二十八条第一項に規定する基金一括納付対象事業主を除く。）以下この項及び次項、第二十三条第一項第二号、第二十四条並びに第二十五条第二項において同じ。）は、自主解散型納付計画等の承認の申請を行う場合は、申請書に次の各号に掲げる書類を添付し、厚生労働大臣に提出することによって行うものとする。

- 一 当該事業主に係る自主解散型納付計画等
- 二 当該自主解散型納付計画書等に記載された当該設立事業所の事業主に係る納付の猶予を受けようとする額の支払期月及び当該支払期月ごとに支払う額を記載した書類
- 三 損益計算書その他の当該設立事業所の収支の状況を示す書類（第二十五条第一項において「損益計算書等」という。）

4 前項の提出は、当該設立事業所の事業主が設立している存続厚生年金基金を経由して行うものとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

（自主解散型納付計画等の記載事項）

第二十三條 平成二十五年改正法附則第十二条第三項第四号及び第二十一条第三項第三号の厚生労働省令で定める事項は、次の各号に掲げる事項（設立事業所の事業主が単独の存続厚生年金基金にあっては、第二号に掲げる事項を除く。）とする。

- 一 清算が終了するまでの間における自主解散型納付計画等に基づく事務その他の清算に係る事務の執行に関する事項
- 二 納付の猶予を受けようとする金額に係る設立事業所の事業主ごとの負担方法

2 平成二十五年改正法附則第十二条第四項第三号及び第二十一条第四項第三号の厚生労働省令で定める事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 当該設立事業所の事業主が設立している存続厚生年金基金が解散した後確定給付企業年金若しくは改正後確定拠出年金法第二条第二項に規定する企業型年金（以下「企業型年

金」という。）を実施する場合又は中小企業退職金共済法（昭和三十四年法律第六十号）第二条第三項に規定する退職金共済契約（以下単に「退職金共済契約」という。）を締結する場合は、その概要

二 納付の猶予を受けようとする期間が五年を超える場合は、その理由

3 平成二十五年改正法附則第十二条第四項第二号及び第二十一条第四項第二号の当該事業主が納付の猶予を受けようとする額は、年を単位として分割して当該自主解散型納付計画等に記載しなければならぬ。

（自主解散型納付計画等の承認の要件）

第二十四條 平成二十五年改正法附則第十二条第七項第二号及び第二十一条第六項第二号の厚生労働省令で定める要件は、次のいずれにも該当するものであることとする。

- 一 収支の状況その他当該設立事業所の経営の状況から見て当該自主解散型納付計画等に記載された当該設立事業所の事業主に係る納付の猶予を受けようとする額及びその期間の設定が合理的なものであること。
- 二 年を単位として分割して自主解散型納付計画等に記載された当該設立事業所の事業主に係る納付の猶予を受けようとする額の年ごとの額の設定が合理的なものであること。
- 三 当該設立事業所の事業主の負担する金額が前条第一項第二号に規定する事業主ごとの負担方法その他の事情から見て適正なものであること。

（納付計画の変更）

第二十五條 平成二十五年改正法附則第十四条第一項（同条第四項、平成二十五年改正法附則第二十三条及び第三十二条において準用する場合を含む。以下この項及び第三項において同じ。）の規定により自主解散型納付計画等及び平成二十五年改正法附則第三十条第一項（平成二十六年経過措置政令第三十七条の規定により読み替えて適用する場合を含む。以下同じ。）に規定する清算未了特定基金型納付計画（以下「清算未了特定基金型納付計画」という。）（以下これらの計画を単に「納付計画」という。）の変更の申請は、申請書に、変更後の納付計画及び平成二十五年改正法附則第十四条第一項の猶予がされた期間内に猶予がされた額を納付することができないやむを得ない理由及び損益計算書等

がされた期間内に猶予がされた額を納付すること

を添付して厚生労働大臣に提出することによって行うものとする。

2 存続厚生年金基金の設立事業所の事業主は、自主解散型納付計画等の承認の申請をする場合は、当該承認の申請と同時に、平成二十五年改正法附則第十四条第一項の規定による自主解散型納付計画の変更の承認の申請又は平成二十五年改正法附則第二十三条において準用する同項の規定による清算型納付計画の変更の承認の申請をすることができ、

3 厚生労働大臣は、平成二十五年改正法附則第十四条第一項の承認の申請があった場合において、当該申請が次に掲げる要件のいずれにも適合すると認めるときは、その承認をするものとする。
一 収支の状況その他当該設立事業所の経営の状況から見て当該変更後の納付計画に基づき納付することが可能であると見込まれること。

二 一年を単位として分割して当該変更後の納付計画に記載された当該設立事業所の事業主（当該存続厚生年金基金を共同して設立している場合にあつては、当該存続厚生年金基金を設立している各事業主（平成二十六年経過措置政令第十六条第一項及び第二十八条第一項並びに平成二十六年経過措置政令第三十七条において読み替えて適用する平成二十五年改正法附則第三十条第一項に規定する基金一括納付対象事業主を除く。）に係る納付の猶予を受けようとする額の年ごとの額の設定が合理的であると認められること）

(納付の猶予の場合の加算金の徴収)
第二十六条 平成二十五年改正法附則第十六条第一項（平成二十五年改正法附則第二十三条及び第三十二条において準用する場合を含む。）に定める加算金のうち同項第一号に定める額については、徴収金額の一部につき納付があつたときに、当該納付額を同号における徴収金額とみなして同号の規定により計算した額を徴収するものとする。

(清算型納付計画の提出)
第二十七条 平成二十五年改正法附則第十九条第七項の規定による清算計画は、代議員会において代議員の定数の三分の二以上の多数により議決し、厚生労働大臣が指定する日までに厚生労働大臣に提出しなければならない。

(清算未了特定基金型納付計画の提出)
第二十八条 清算未了特定基金型納付計画は、当該清算未了特定基金型納付計画に次に掲げる書

類を添付して、厚生労働大臣に提出することによって行うものとする。

一 当該清算未了特定基金（平成二十五年改正法附則第三十条第一項に規定する清算未了特定基金をいう。以下同じ。）が清算未了特定基金型納付計画の提出に同意したことを証する書類

二 損益計算書その他の当該清算未了特定基金の設立事業所の事業主（当該存続厚生年金基金を共同して設立している場合にあつては、当該存続厚生年金基金を設立している各事業主（平成二十六年経過措置政令第三十七条において読み替えて適用する平成二十五年改正法附則第三十条第一項に規定する基金一括納付対象事業主を除く。）以下この条、次条第一項及び第三十条において同じ。）の経営の状況を示す書類

三 当該設立事業所の事業主に係る納付の猶予を受けようとする額の支払期月及び当該支払期月ごとに支払う額を記載した書類

四 平成二十五年改正法附則第三十条第五項の規定に基づき算定した額の算定の根拠を示す書類

2 前項の提出は、当該設立事業所の事業主が設立している清算未了特定基金を経由して行うことができる。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

第二十九条 平成二十五年改正法附則第三十条第四項第三号の厚生労働省令で定める事項は、当該設立事業所の事業主について確定給付企業年金若しくは企業型年金を実施している場合若しくは実施する場合又は退職金共済契約を締結している場合若しくは締結する場合にあつてはその概要とする。

2 平成二十五年改正法附則第三十条第四項第二号の当該事業主が納付の猶予を受けようとする額は、年を単位として分割して当該清算未了特定基金型納付計画に記載しなければならない。

(清算未了特定基金型納付計画の承認の要件)
第三十条 平成二十五年改正法附則第三十条第七項第一号の厚生労働省令で定める要件は、次の各号のいずれにも該当するものであることとする。
一 収支の状況その他当該設立事業所の経営の状況から見て当該清算未了特定基金型納付計画に記載された当該設立事業所の事業主に係

る納付の猶予を受けようとする期間の設定が合理的であると認められること。

二 年を単位として分割して当該清算未了特定基金型納付計画に記載された当該設立事業所の事業主に係る納付の猶予を受けようとする額の年ごとの額の設定が合理的であると認められること。

(実施事業所の一部に係る事業に主として従事していた者)

第三十一条 平成二十六年経過措置政令第四十条第一号の厚生労働省令で定める者は、次のとおりとする。
一 平成二十六年経過措置政令第四十条第一号に規定する存続厚生年金基金の設立事業所に使用される者であつて、事業の承継が行われる時点において承継される事業に主として従事していたもの

二 事業の承継の時点において承継される事業に主として従事していない者であつて、当該時点後に当該承継される事業に主として従事することとなることが明らかであるもの

(存続厚生年金基金から移行した確定給付企業年金の掛金の額の計算に関する経過措置)
第三十二条 平成二十五年改正法附則第三十五条第二項の規定に基づき残余財産の交付を受けた確定給付企業年金の事業主等（改正後確定給付企業年金法第二十九条第一項に規定する事業主等）をいう。以下同じ。）に係る第二項の規定に

よる改正後の確定給付企業年金法施行規則（以下「改正後確定給付企業年金法施行規則」という。）第四十六条第一項に規定する特別掛金額（以下「特別掛金額」という。）については、当該交付された残余財産を原資として老齢給付金等（平成二十五年改正法附則第三十五条第二項に規定する老齢給付金等）をいう。第三十六条において同じ。）の支給が行われる者に係る額を改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六条第一項第三号に規定する方法により計算する場合

においては、同号の規定にかかわらず、同号中「百分の十五」とあるのは、「百分の十に平成二十六年四月一日から公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三号）附則第三十五条第一項の規定に基づき残余財産の交付を受けた日までの年数（その期間に一年に満たない端数がある場合にあつては、これを切り捨てるものとする。）に百分の〇・五

を乗じて得た数を加算した数（当該数が百分の十五を超える場合にあつては、百分の十五とする。）とすることができる。

を乗じて得た数を加算した数（当該数が百分の十五を超える場合にあつては、百分の十五とする。）とすることができる。

2 平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十條の二第三項、第百十一條第二項又は第百十二條第四項の規定に基づき存続厚生年金基金の設立事業所に使用される当該存続厚生年金基金の加入員及び加入員であつた者に係る給付（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百三十二條第二項に規定する額に相当する給付を除く。次条第一項、第三十四條第一項、第三十五条及び第三十六条において「存続厚生年金基金の加入員及び加入員であつた者に係る改正前確定給付企業年金法の規定による給付」という。）の支給に関する権利義務を承継した確定給付企業年金の事業主等に係る特別掛金額について、当該給付の支給に関する権利義務が移転された者に係る額を改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項第三号に規定する方法により計算する場合においては、同号の規定にかかわらず、同号中「百分の十五」とあるのは、

「百分の十に平成二十六年四月一日から公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三号）以下「改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法附則第二條の規定による改正前の確定給付企業年金法第百十條の二第三項、第百十一條第二項又は第百十二條第四項の規定に基づき存続厚生年金基金（平成二十五年改正法附則第三條第十一號に規定する存続厚生年金基金をいう。以下同じ。）の設立事業所に使用される当該存続厚生年金基金の加入員及び加入員であつた者に係る給付（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法附則第一條の規定による改正前の厚生年金保険法第百三十二條第二項に規定する額に相当する給付を除く。）の支給に関する権利義務を承継した日までの年数（その期間に一年に満たない端数がある場合にあつては、これを切り捨てるものとする。）に百分の〇・五を乗じて得た数を加算した数（当該数が

を乗じて得た数を加算した数（当該数が百分の十五を超える場合にあつては、百分の十五とする。）とすることができる。

百分の十五を超える場合にあつては、百分の十五とする。」とすることができる。

3 平成二十五年改正法附則第十一條第五項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく認定又は平成二十五年改正法附則第十三條第二項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく納付の猶予を受けた存続厚生年金基金の設立事業所(当該存続厚生年金基金が解散した場合にあつては、設立事業所であつたもの。次条第一項、第三十四條第一項及び第三十六條において同じ。)が新たに確定給付企業年金を実施し、改正後確定給付企業年金法第二十八條第三項又は平成二十六年経過措置政令第三十條第一項の規定に基づき当該存続厚生年金基金の加入員であつた期間を加算する期間に算入した場合における当該確定給付企業年金の当該事業主等に係る特別掛金額について、当該加入者期間が算入された者に係る額を改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項第三号に規定する方法により計算する場合においては、同号の規定にかかわらず、同号中「百分の十五」とあるのは、「百分の十に平成二十六年四月一日から法第二十八條第三項又は公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令(平成二十六年政令第七十四号)第三十條第一項の規定に基づき公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号)附則第三條第十一号に規定する存続厚生年金基金の加入員であつた期間を加算する期間に算入した日までの年数(その期間に一年に満たない端数がある場合にあつては、これを切り捨てるものとする。))に百分の〇・五を乗じて得た数を加算した数(当該数が百分の十五を超える場合にあつては、百分の十五とする。)」とすることができる。

4 平成二十五年改正法附則第三十五條第一項の規定に基づき確定給付企業年金の事業主等が残余財産の交付を受けた場合において、財政計算(改正後確定給付企業年金法施行規則第二十四條の第三号イ(一)に規定する財政計算をいう。以下同じ。)を実施する場合にあつては、改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項の規定にかかわらず、特別掛金額は、次の各号に掲げる額を合算した額とすることができる。この場合において、第一号に掲げる額の

計算に係る同項第一号、第二号又は第四号の規定の適用については、同項第一号中「二十年」とあるのは、「三十年」とする。

1 当該残余財産の交付に係る実施事業所の当該残余財産が交付された者に係る過去勤務債務の額(改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項に規定する過去勤務債務の額をいう。以下同じ。)の全部又は一部(次号及び次項において「厚生年金基金の過去期間通算による過去勤務債務の額」という。)について、同条第一項第一号、第二号又は第四号の規定に基づき計算した額

2 過去勤務債務の額から厚生年金基金の過去期間通算による過去勤務債務の額を控除した額について、改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項から第六項までのいづれかの規定に基づき計算した額

5 前項の場合において、前回の財政計算において発生した厚生年金基金の過去期間通算による過去勤務債務の額の償却が完了していない場合にあつては、改正後確定給付企業年金法施行規則第四十六條第一項の規定にかかわらず、特別掛金額は、次の各号に掲げる額を合算した額とする。この場合において、前回の財政計算において発生した特別掛金額のうち、厚生年金基金の過去期間通算による過去勤務債務の額に係る部分の額

6 前二項の規定は、第二項の規定に基づき特別掛金額を計算した場合について準用する。この場合において、第四項第一号中「残余財産の交付」とあり、及び「過去期間通算」とあるのは「権利義務の承継」と、当該残余財産が交付された者」とあるのは「権利義務が承継された者」と、同項第二号及び前項中「過去期間通算」とあるのは「権利義務の承継」と読み替えるものとする。

7 第四項及び第五項の規定は、第三項の規定に基づき特別掛金額を計算した場合について準用する。この場合において、第四項第一号中「当該残余財産の交付に係る」とあるのは「当該

と、「当該残余財産が交付された者」とあるのは「当該過去期間通算が行われた者」と読み替えるものとする。

(存続厚生年金基金の設立事業所が確定給付企業年金を実施する場合の積立不足による掛金の額の再計算の特例)

第三十三條 平成二十五年改正法附則第三十五條第一項の規定に基づき残余財産の交付を受けた確定給付企業年金の事業主等が当該残余財産の交付に係る者に係る特別掛金額について、存続厚生年金基金の加入員及び加入員であつた者に係る改正前確定給付企業年金法の規定による給付の支給に関する権利義務を承継した確定給付企業年金の事業主等が当該権利義務が移転された者に係る特別掛金額について、又は平成二十五年改正法附則第十一條第五項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく認定若しくは平成二十五年改正法附則第十三條第二項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく納付の猶予を受けた存続厚生年金基金の設立事業所が新たに確定給付企業年金を実施し、改正後確定給付企業年金法第二十八條第三項若しくは平成二十六年経過措置政令第三十條第一項の規定に基づき当該存続厚生年金基金の加入員であつた者について当該存続厚生年金基金の加入員期間を算入した場合には、当該存続厚生年金基金の加入員であつた者に係る特別掛金額について、それぞれ当該確定給付企業年金の事業主等に対する改正後確定給付企業年金法施行規則第五十六條第一号の規定を適用する場合には、事業年度の末日が平成二十七年三月三十日までの間、同号中「二十年間」とあるのは、「平成二十六年四月一日から公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号)以下「平成二十五年改正法」という。)附則第三十五條第一項の規定に基づき残余財産の交付を受けた日、平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法第二條の規定による改正前の確定給付企業年金法第百十條の第二項、第百十一條第二項若しくは第百十二條第四項の規定に基づき権利義務を承継した日又は平成二十五年改正法附則第十一條第五項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく認定若しくは平成二十五年改正法附則第十三條第二項若しくは第二十二條第二項の規定に基づく納付の猶予を受け法

と、「当該残余財産が交付された者」とあるのは「当該過去期間通算が行われた者」と読み替えるものとする。

第二十八條第三項若しくは公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令(平成二十六年政令第七十四号)第三十條第一項の規定に基づき平成二十五年改正法附則第三十條第一号に規定する存続厚生年金基金の加入員であつた期間を算入した日までの年数(その期間に一年に満たない端数がある場合にあつては、これを切り捨てるものとする。)を三十年から控除して得た年数(当該年数が二十年未満となる場合にあつては、二十年とする。))とする。

2 事業年度の末日が平成二十七年三月三十一日から平成三十六年三月三十日までの間における前項の場合においては、同項において読み替えられた改正後確定給付企業年金法施行規則第五十六條第一号の規定を準用する。この場合において、同号中「三十年」とあるのは、次の表の上欄に掲げる期間の区分に応じて、それぞれ同表の下欄に掲げる年数に読み替えるものとする。

事業年度の末日が平成二十七年三月三十一日から平成二十八年三月三十日までの間	二年
事業年度の末日が平成二十八年三月三十一日から平成二十九年三月三十日までの間	三年
事業年度の末日が平成二十九年三月三十一日から平成三十年三月三十日までの間	四年
事業年度の末日が平成三十年三月三十一日から平成三十一年三月三十日までの間	五年
事業年度の末日が平成三十一年三月三十一日から平成三十二年三月三十日までの間	六年
事業年度の末日が平成三十二年三月三十一日から平成三十三年三月三十日までの間	七年
事業年度の末日が平成三十三年三月三十一日から平成三十四年三月三十日までの間	八年
事業年度の末日が平成三十四年三月三十一日から平成三十五年三月三十日までの間	九年

事業年度の末日が平成三十五年三月三十一日から平成三十六年三月三十一日まで 一年

事業年度の末日が平成三十五年三月三十一日から平成三十六年三月三十一日まで 一年

第三十四条 平成二十五年改正法附則第三十五条

第一項の規定に基づき残余財産の交付を受けた者、存続厚生年金基金の加入員及び加入員であった者に係る改正前確定給付企業年金法の規定による給付の支給に関する権利義務を承継した確定給付企業年金の当該権利義務が承継された者又は平成二十五年改正法附則第三十一条第七項若しくは第二十条第二項の規定に基づき認定若しくは平成二十五年改正法附則第十三条第二項若しくは第二十条第二項の規定に基づく納付の猶予を受けた存続厚生年金基金の設立事業所が新たに実施する確定給付企業年金(改正後確定給付企業年金法第二十八条第三項又は平成二十六年経過措置政令第三十条第一項の規定に基づき当該存続厚生年金基金の加入員であった期間を加入期間に算入(以下この項において「過去期間通算」という。)した場合に限る)の当該過去期間通算を行った者に係る改正後確定給付企業年金法第六十三条の厚生労働省令で定めるところにより計算した額は、確定給付企業年金法施行規則第五十八条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる額を合算した額とすることができる。

一 確定給付企業年金法施行規則第五十八条第一項第一号の表中「五」とあるのは「五」を平成二十六年四月一日から当該事業年度の末日までの年数(その期間に一年に満たない端数がある場合)を十から減じた数(当該数が零未満となる場合)に、零とす。以下「延長年数」という。)を加えた数」と「六十分の二」とあるのは「十分の一」を十五に延長年数を加えた数で除した数(これを切り捨てた数)を乗じた数に、十に延長年数を加えた数で除した数(これを切り捨てた数)を乗じた数」と、「百五十分の一」とあるのは「十分の一」を十五に延長年数を加えた数で除した数(これを切り捨てた数)を乗じた数」と、「十五分の一」とあるのは「十分の一」を十五に延長年数を加えた数で除した数(これを切り捨てた数)を乗じた数」とあるのは「十五に延長年数を加えて」

た数で除して」として、当該残余財産の交付、当該権利義務の承継又は当該過去期間通算に係る者に対して同号の規定に基づき計算した額

二 当該残余財産の交付、当該権利義務の承継又は当該過去期間通算に係る者以外の者に対して確定給付企業年金法施行規則第五十八条第一項第一号の規定に基づき計算した額

2

事業年度の末日が平成二十九年三月三十一日までの間における前項の規定の適用を受ける場合に係る改正後確定給付企業年金法施行規則第二十条の規定の適用については、同条第一項の表中「千五百分の十九」とあるのは「五十万百分の三十三」と、「千五百分の二十一」とあるのは「四十五万六千分の三十五」と、「千五百分の二十三」とあるのは「四十一万四千分の三十七」と、「千五百分の四」とあるのは「二千五百分の四」と、「千五百分の六」とあるのは「二千四百百分の六」と、「千五百分の八」とあるのは「二千三百百分の八」とする。

第三十五条 平成三十一年三月三十一日までの間

存続厚生年金基金から移行した場合の最低保全給付に関する経過措置

一 存続厚生年金基金の加入員及び加入員であった者に係る改正前確定給付企業年金法の規定による給付の支給に関する権利義務を承継した事業主等に係る確定給付企業年金に対する改正後確定給付企業年金法施行規則第五十四条第二項の規定の適用については、当該権利義務の承継により増加する同項に規定する最低保全給付の額に、当該権利義務の承継に係る規約が効力を有することとなる日から当該事業年度の末日までの年数(その期間に一年に満たない端数がある場合)を五から減じた数(当該数が零未満となる場合)に、零とす。以下「延長年数」という。)を五で除して得た数(これを切り捨てた数)を乗じて得た額を同項の規定により控除する額に加算することができる。

第三十六条 事業年度の末日が平成三十六年三月

三十日までの間において、確定給付企業年金の加入者(平成二十五年改正法附則第三十五条第一項の規定に基づき残余財産の交付を受けて老齢給付金等の支給が行われるもの又は存続厚生年金基金の加入員及び加入員であった者に係る改正前確定給付企業年金法の規定による給付の

支給に関する権利義務が承継されたものに限る。)を使用する実施事業所又は平成二十五年改正法附則第三十一条第五項若しくは第二十条第二項の規定に基づき認定若しくは平成二十五年改正法附則第三十二条第二項若しくは第二十一条第二項の規定に基づく納付の猶予を受けた存続厚生年金基金の設立事業所が新たに確定給付企業年金を実施し、改正後確定給付企業年金法第二十八条第三項又は平成二十六年経過措置政令第三十条第一項の規定に基づき当該存続厚生年金基金の加入員であった期間を算入した場合にあっては当該設立事業所であった実施事業所に係る第九十条の規定による改正後の確定給付企業年金法施行規則の一部を改正する省令附則第四条第一項の規定の適用については、同項中次の表の上欄に掲げる字句を同表の中欄に掲げる期間の区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。

Table with 2 columns: 七, 十. Rows: 事業年度の末日が平成三十四年三月二十日までの間, 事業年度の末日が平成三十四年三月三十一日から平成三十五年三月三十日までの間, 事業年度の末日が平成三十五年三月三十日までの間.

(解散した存続厚生年金基金の加入員期間の一部を老齢給付金等の額の算定の基礎として用いる際の算定方法)

第三十七条 平成二十六年経過措置政令第四十二条

一 確定給付企業年金の規約に照らして当該交付された解散した存続厚生年金基金の残余財産の額の算定の基礎となる期間を算定すること。ただし、算定された期間が当該解散基金の加入員であった期間を超える場合において、当該解散基金加入員等の当該解散した存続厚生年金基金の加入員等であった期間とする。

二 その他当該解散基金加入員等について不当に差別的なものでなく合理的な計算方法であると認められること。

(平成二十五年改正法附則第三十五条第一項の規定による申出等)

第三十八条 平成二十五年改正法附則第三十五条

第一項の規定による申出は、解散基金加入員等に係る次の各号に掲げる事項を確定給付企業年金の事業主等に対し提出することによって行うものとする。

一 氏名、性別、生年月日及び住所

二 平成二十五年改正法附則第三十五条第一項の規定に基づき交付を申し出る残余財産の額

前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。

2

一 電子情報処理組織(送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。)を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの(以下「電子情報処理組織を使用する方法」という。)

イ 送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面により通知すべき事項を電気通信回線を通じて受信者の閲覧に供し、当該受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法

二 電磁的記録媒体(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。)に係る記録媒体をいう。以下同じ。)をもって調製するファイルに書面により通知すべき事項を記録したものを交付する方法

三 書面を交付する方法

平成二十五年改正法附則第三十五条第四項の規定による通知は、次の各号に掲げる事項を記載した通知書を当該解散基金加入員等に送付することによって行うものとする。

一 資産管理運用機関等(改正後確定給付企業年金法第三十条第三項の規定による資産管理運用機関等をいう。)が残余財産の移換を受けた年月日及びその額

二 平成二十五年改正法附則第三十五条第四項の規定による通知は、次の各号に掲げる事項を記載した通知書を当該解散基金加入員等に送付することによって行うものとする。

二 平成二十六年経過措置政令第四十二条の規定により解散基金加入員等に係る加入者期間に算入される期間
 4 平成二十五年改正法附則第三十五条第五項に規定による公告は、事業主等の事務所の掲示板に掲示して行うものとする。
 (解散した存続厚生年金基金による交付の申出等)

第三十九条 平成二十五年改正法附則第三十六条第一項(同条第七項において準用する場合を含む。以下同じ。)の申出は、解散存続厚生年金基金(同条第一項に規定する解散した存続厚生年金基金をいう。以下この条及び第四十二条において同じ。)の設立事業所の事業主のうち、その雇用する解散基金加入員(同項に規定する解散基金加入員をいう。以下同じ。)に分配すべき残余財産のうち被共済者持分額(以下「被共済者持分額」という。)の範囲内の額の交付を希望する事業主(以下「対象事業主」という。)ごとに、次に掲げる事項を記載した書面を独立行政法人勤労者退職金共済機構(以下この条及び第四十二条において「機構」という。)へ提出することにより行うものとする。
 一 解散存続厚生年金基金の名称、住所及び基金番号
 二 解散存続厚生年金基金が解散した日
 三 対象事業主の氏名又は名称及び住所
 四 対象事業主の雇用する解散基金加入員(被共済者持分額のうち、対象事業主が機構への交付を希望する額(以下「交付予定額」という。))の交付を希望する者に限る。)の氏名及びその総額
 五 前号の解散基金加入員に係る交付予定額及びその総額
 六 第四号の解散基金加入員に係る存続厚生年金基金の加入員の資格の取得及び喪失の年月日並びに当該存続厚生年金基金の加入員であった期間の月数
 七 その他申出に関し必要な事項
 2 前項の書面には、次に掲げる書類を添付しなければならない。
 一 対象事業主及び前項第四号の解散基金加入員が、交付予定額の交付を希望することを証する書類
 二 解散存続厚生年金基金が解散した日を証する書類
 三 前項第六号の年月日及び月数を証する書類
 3 解散存続厚生年金基金は、交付予定額の交付については、当該交付予定額の総額を機構が指

定する預金口座へ振り込むことにより行うものとし、当該交付は、機構が当該預金口座を指定した日から起算して六十日以内に行わなければならない。
 (掛金納付月数の通算等)

第四十条 平成二十五年改正法附則第三十六条第二項の規定による掛金納付月数の通算は、同条第一項に規定する退職金共済契約(以下この条及び第四十二条において「退職金共済契約」という。)の効力が生じた日の属する月から当該通算する月数分遡った月において同日に相当する日(その日に該当する日がない月においては、その月の末日。以下この条において「みなし加入日」という。)に退職金共済契約の効力が生じ、かつ、当該相当する日の属する月から現に退職金共済契約の効力が生じた日の属する月の前月までの各月分の掛金が当該退職金共済契約の効力が生じた日における当該退職金共済契約の被共済者に係る掛金月額に相当する額の掛金月額により納付されたものとみなし、当該通算する月数と当該退職金共済契約に係る掛金納付月数を通算することにより行うものとする。
 2 前項の規定により掛金の納付があつたものとみなされた被共済者に対する中小企業退職金共済法第十条第二項第三号ロ(同法第十六条第三項において準用する場合を含む。)の規定の適用については、みなし加入日に退職金共済契約の効力が生じたものとみなす。
 3 平成二十五年改正法附則第三十六条第二項の規定による掛金納付月数の通算が行われた場合(同条第八項の規定に基づき退職金の額に元利合計額を加算する場合を含む。)における中小企業退職金共済法施行規則(昭和三十四年労働省令第二十三号)第十九条第二項、第三十条、第四十七条第一項、第四十九条及び附則第三条の規定の適用については、次の表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。

中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項各号列記以外の部分	又	若しくは	繰入れ又は公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号)。
-------------------------------	---	------	---

中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	移	移	移	移	以下「平成二十五年改正法」という。)附則第三十六条第一項(同条第七項において準用する場合を含む。第三号、第三十条、第四十七条第一項及び第四十九条において同じ。)の交付
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	受	受	受	受	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	換	換	換	換	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	な	な	な	な	受けなかつた又は当該交付がなかつた
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	か	か	か	か	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	な	な	な	な	受けなかつた又は当該交付がなかつた
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	受	受	受	受	受けなかつた又は当該交付がなかつた
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	場	場	場	場	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	合	合	合	合	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	場	場	場	場	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が
中小企業退職金共済法施行規則第九條第二項第三号	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第十條	中小企業退職金共済法施行規則第九條	合	合	合	合	移換又は平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の交付が

第四十一条 平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の申出に係る被共済者について納付された掛金に係る中小企業退職金共済法施行規則第四十五条の規定の適用については、同条中「及び同居の親族のみを雇用する中小企業者」とあるのは、「同居の親族のみを雇用する中小企業者及び存続厚生年金基金(公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号)附則第三條第十一号)に規定する存続厚生年金基金をいう。以下同じ。)の設立事業所の事業主又は同法附則第三十六条第一項に規定する解散した存続厚生年金基金の設立事業所の事業主である中小企業者(公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令(平成二十六年厚生労働省令第二十号)第四十二条の規定に基づき同法附則第三十六条第一項(同条第七項において準用する場合を含む。)の交付の申出を行わないことが確認された中小企業者を除く。」とする。
 4 みなし加入日が平成三年四月一日前の日である被共済者に対する中小企業退職金共済法第十条第二項及び平成二十六年整備政令付録備考の規定の適用については、第二項の規定によるほか、同法第十条第二項第三号ロ中「月数となる月」とあるのは「月数となる月(平成四年四月以後の月に限る。)」と、平成二十六年整備政令付録備考中「中小企業退職金共済法第十条第二項第三号ロ」とあるのは、「平成四年四月以後の計算月について中小企業退職金共済法第十条第二項第三号ロ」とする。
 (加入促進のための掛金負担軽減措置に関する特例)

び経過措置に関する省令(平成二十六年厚生労働省令第二十号。以下「平成二十六年整備省令」という。)第四十条第三項の規定により第四十七条第一項を読み替えて適用する場合を除く。

(機構が行う必要な確認等)

第四十二条 存続厚生年金基金の設立事業所の事業主又は解散存続厚生年金基金の設立事業所の事業主が、退職金共済契約の申込みを行うときは、機構は、中小企業退職金共済法施行規則第四十五条の適用その他の事項について必要な説明を行い、平成二十五年改正法附則第三十六条第一項の申出をするかどうかの確認をするものとする。

第四十三条 (解散計画)

存続厚生年金基金は、施行日から起算して五年を経過する日までの間に、平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第四十五条第一項第一号又は第二号に掲げる理由により解散をしようとする場合は、当該解散に関する計画(以下この条及び次条第一項において「解散計画」という。)を厚生労働大臣に提出することができる。

2 解散計画を提出した存続厚生年金基金については、平成二十六年経過措置政令第三条第二項の規定によりなすその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第三十六条の三第二号及び第三号の規定は適用せず、第十七条第一項の規定によりなすその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金規則第三十二条第五項の規定の適用については、同項中「計算されなければならない」とあるのは、「計算されなければならない」とする。

3 解散計画を提出した存続厚生年金基金は、当該解散計画に従って、その事業を行わなければならないが、当該解散計画に記載した事項に変更が生じたときは、速やかに当該解散計画の内容を変更し、変更後の解散計画を厚生労働大臣に提出しなければならない。

第四十四条 (解散計画の記載事項)

解散計画には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
一 解散計画の適用開始日及び解散予定日
二 事業及び財産の現状
三 年金給付等積立金(平成二十五年改正法附則第十一条第一項に規定する年金給付等積立金をいう。第四十六条第一項において同じ。)の積立立ての目標

四 前号の目標を達成するために必要な具体的措置及びこれに伴う収入支出の増減の見込額
2 前項第四号に掲げる措置は、同項第三号に掲げる目標に照らして合理的と認められるものではない。

第四十五条 (代行返上計画)

存続厚生年金基金は、施行日から起算して五年を経過する日までの間に、平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十一条の規定により当該存続厚生年金基金の加入員及び加入員であった者に係る給付の支給に関する権利義務の移転を申し出ようとする場合又は平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十二条第一項の規定により企業年金基金(改正後確定給付企業年金法第二条第四項に規定する企業年金基金をいう。)となろうとする場合は、当該権利義務の移転に関する計画(次項及び次条第一項において「代行返上計画」という。)を厚生労働大臣に提出することができる。

2 第四十三条第二項及び第三項の規定は、代行返上計画について準用する。この場合において、これらの規定中「解散計画」とあるのは、「代行返上計画」と読み替えるものとする。

第四十六条 (代行返上計画の記載事項)

代行返上計画には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
一 代行返上計画の適用開始日及び代行返上予定日
二 事業及び財産の現状
三 年金給付等積立金の積立立ての目標
四 前号の目標を達成するために必要な具体的措置及びこれに伴う収入支出の増減の見込額
2 前項第四号に掲げる措置は、同項第三号に掲げる目標に照らして合理的と認められるものではない。

第四十七条

存続厚生年金基金が解散したときは、清算人は、日本年金機構(以下「機構」という。)に対し、遅滞なく、解散した日において当該存続厚生年金基金が年金たる給付の支給の義務を負っている者につき、次の各号に掲げる事項及び第五号に掲げる額の算出の基礎となる

事項を記載し、若しくは記録した書面若しくは電磁的記録媒体を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供しなければならない。

一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号
二 当該存続厚生年金基金が年金たる給付の支給の義務を負っている者の資格の取得及び喪失の年月日
三 平成十五年四月一日前の加入員たる被保険者であった期間(平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十二条の認可を受けた存続厚生年金基金にあっては、当該認可を受けた日以降の当該存続厚生年金基金の加入員であった期間を除く加入員たる被保険者であった期間をいう。以下この号及び次号において同じ。)の報酬標準給与(廃止前厚生年金基金令第十七条第一項に規定する報酬標準給与をいう。以下同じ。)の月額及び被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の標準報酬月額

四 平成十五年四月一日以後の加入員たる被保険者であった期間の報酬標準給与の月額及び賞与標準給与(廃止前厚生年金基金令第十七条第三項に規定する賞与標準給与をいう。以下同じ。)の額並びに被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の標準報酬月額及び標準賞与額

五 平成二十五年改正法附則第八条の規定により政府が徴収する額
2 平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十一条第三項の規定により解散の認可があったものとみなされた場合における前項の規定の適用については、同項各号列記以外の部分中「解散したとき」とあるのは「平成二十五年改正法附則第五条第一項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十一条第三項の規定により解散の認可があったものとみなされたとき」と、「解散した日」とあるのは「解散の認可があったものとみなされた日」とする。

3 第一項の規定は、存続厚生年金基金が、平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条

の二第一項の規定による給付の支給に関する権利義務の移転の認可を受けた場合に準用する。この場合において、第一項中「解散したときは、清算人は、遅滞なく、解散した日において当該存続厚生年金基金が年金たる給付の支給の義務を負っている者」とあるのは「平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条の二第一項の規定による給付の支給に関する権利義務を承継した確定給付企業年金の事業主等に係る改正後確定給付企業年金法施行令第二十条第一項に規定する加入者に関する事項は、改正後確定給付企業年金法施行規則第二十一条各号に掲げる事項のほか、厚生年金基金の加入員の資格の取得及び喪失年月日とする。
5 第一項の規定は、平成二十五年改正法附則第二十七条第二項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十三条第三項の規定により同項に規定する減額責任準備金相当額を徴収することとされた特定基金(同条第一項に規定する特定基金をいう。以下この項において同じ。)又は平成二十五年改正法附則第二十八条第一項若しくは第三項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十四条第一項の承認を受けた特定基金が解散した場合に準用する。この場合において、第一項第五号中「附則第八条」とあるのは、「附則第二十七条第

の二第一項の規定による給付の支給に関する権利義務の移転の認可を受けた場合に準用する。この場合において、第一項中「解散したときは、清算人は、遅滞なく、解散した日において当該存続厚生年金基金が年金たる給付の支給の義務を負っている者」とあるのは「平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条の二第一項の規定による給付の支給に関する権利義務の移転の認可を受けたとき」とあり、当該権利義務の移転の認可を受けたときは、「平成二十五年改正法」であるのは「平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条の二第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法」であるものと読み替えて適用する平成二十五年改正法」と読み替えるものとする。
4 平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十一条の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条の二第一項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第百十条の二第一項の規定による給付の支給に関する権利義務を承継した確定給付企業年金の事業主等に係る改正後確定給付企業年金法施行令第二十条第一項に規定する加入者に関する事項は、改正後確定給付企業年金法施行規則第二十一条各号に掲げる事項のほか、厚生年金基金の加入員の資格の取得及び喪失年月日とする。
5 第一項の規定は、平成二十五年改正法附則第二十七条第二項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十三条第三項の規定により同項に規定する減額責任準備金相当額を徴収することとされた特定基金(同条第一項に規定する特定基金をいう。以下この項において同じ。)又は平成二十五年改正法附則第二十八条第一項若しくは第三項の規定によりなすその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十四条第一項の承認を受けた特定基金が解散した場合に準用する。この場合において、第一項第五号中「附則第八条」とあるのは、「附則第二十七条第

二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十三条第三項又は平成二十五年改正法附則第二十八條第一項若しくは第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十四條第五項」と読み替えるものとする。

6 第一項の規定は、平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の場合に準用する。この場合において、第一項中「存続厚生年金基金が解散」とあるのは「施行日前に旧厚生年金基金が改正前厚生年金保険法第四十五條第一項の規定により解散」と、「当該存続厚生年金基金が年金たる給付」とあるのは「当該旧厚生年金基金が老齡年金給付」と、「日本年金機構（以下「機構」という。）」とあるのは「存続連合会」と、「期間（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法附則第三十二條の認可を受けた存続厚生年金基金にあつては、当該認可を受けた日以降の当該存続厚生年金基金の加入員であつた期間を除く加入員たる被保険者であつた期間をいう。以下この号及び次号において同じ。）」とあるのは「期間」と、「附則第八條」とあるのは「附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第一項」と、「政府」とあるのは「存続連合会」と読み替えるものとする。（存続連合会に係る廃止前厚生年金基金規則の効力等）

第四十八條 存続連合会については、廃止前厚生年金基金規則第六十條の二第二項、第六十九條、第七十一條、第七十二條の二から第七十四條第一項まで、第七十四條の二、第七十四條の三第二項から第四項まで、第七十五條（第一項第一号及び第十一号に係る部分を除く。）、第七十七條及び附則第四項前段の規定、廃止前厚生年金基金規則第六十條の二第二項において準用する同條第一項の規定並びに廃止前厚生年金基金規則第七十四條第一項において準用する廃止前厚生年金基金規則第二十一條（第二項第一号及び第四号を除く。）、第二十三條から第二十八條まで、第三十條の二、第三十條の四、第一章第六節（第三十四條第一号、第三十六條第一号及び第三十七條から第四十條までを除く。）、第一章第七節（第四十二條第三項、第四十四條の

第六十九條	法第百五十三條第二項において準用する	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。）附則第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法第一條の規定による改正前の厚生年金保険法（以下「改正前厚生年金保険法」という。）第百五十三條第二項において準用する改正前厚生年金保険法	一時金たる給付並びに年金給付及び一時金	平成二十五年改正法附則第六十一條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法	法第百六十條の二第二項	平成二十五年改正法附則第四十二條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十條の二第五項
-------	--------------------	---	---------------------	---	-------------	---

第六十條	法第百六十條	基金中途脱退者（平成二十五年改正法附則第四十條第一項第一号に規定する基金中途脱退者をいう。以下同じ。）	中途脱退者	基金中途脱退者	法第百六十條の二第二項	平成二十五年改正法附則第四十二條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十條の二第五項
------	--------	---	-------	---------	-------------	---

第七十條	法第百六十一條	解散基金加入員	解散基金加入員又はその遺族	解散基金加入員又はその遺族	法第百六十一條第五項	平成二十五年改正法附則第四十三條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第五項
------	---------	---------	---------------	---------------	------------	--

項一第三の条第二十

第二十七号	第三項第四第三の条第二十七第	法第三十八條	法第六十一條第五	法第六十二條第三	員（確定給付企業年金法）
項にお	平成二十五年改正法附則第四十五條第七項において準用する平成二十五年改正法附則第四	改正後厚生年金保険法第三十八條第一項前段	平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第五項	老齢厚生年金（被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十四年法律第六十三号））第一条の規定による改正後の法第二条の第五項第一号に規定する第一号厚生年金被保険者期間に基づくものに限る。）又は平成二十五年改正法第一条の規定による改正後の厚生年金保険法（以下「改正後厚生年金保険法」という。）附則第二十八條の三第一項	おその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第一項に規定する解散基金加入員（平成二十五年改正法附則第五條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた平成二十五年改正法第二条の規定による改正前の確定給付企業年金法（以下「改正前確定給付企業年金法」という。）

項一第四の条

遺族給	連合会遺族給付金及び平成二十五年改正法附則第四十五條	連合会遺族給付金（令）	移換金又は交付金	交付を受けた	交付した	法第六十二條第二	法第四十七條第四	法第六十二條第四
連合会	連合会遺族給付金及び平成二十五年改正法附則第四十五條	連合会遺族給付金等（公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令（平成二十六年政令第七十三号））第一条の規定による廃止前の厚生年金基金令（以下「廃止前厚生年金基金令」という。）	移換金又は交付金	移換又は交付を受けた	移換又は交付した	平成二十五年改正法附則第四十四條第三項若しくは第四十五條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十二條第二項	平成二十五年改正法附則第三十四條第四項	十三條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十二條第三項において準用する改正前厚生年金保険法

第二の四の条第二十七第	項一第二の四の条第二十七第	連合会遺族給付金	連合会遺族給付金等	法第六十條第七項	法第六十二條第四	法第六十二條第四	法第六十二條第四	法第六十二條第四
項一第	項一第	連合会遺族給付金	連合会遺族給付金等	法第六十條第七項	法第六十二條第四	法第六十二條第四	法第六十二條第四	法第六十二條第四

項一第	項三第二の四の条第二十七第	連合会遺族給付金	連合会遺族給付金等	抄本。	抄本。	抄本。	抄本。	抄本。
項一第	項三第二の四の条第二十七第	連合会遺族給付金	連合会遺族給付金等	抄本。	抄本。	抄本。	抄本。	抄本。

定によ加算されたる額に相当する部分を除く。以下この項において同じ。）の支給に關する権利の移轉、申出は、中途脱退者等（法第六十五條第一項に規定する中途脱退者等（以下「電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法」といふ。）に同じ。）に同じ。）に關する事項を基金に提出することによるものとする。一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号
二 第六十六條第二号から第四号まで又は第七十條第一項第二号から第四号までの規定により、連合会が清算人又は基金から提出を受けた事項
三 基金が老齡年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において、支給すべきこととなる老齡年金給付の額は、前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。
一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」といふ。）を使用する方法として、送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法
ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面により通知すべき事項を電気通信回線を通じて受信者の閱覽に供し、当該受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法
二 電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式

ものとする。一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号
二 第六十六條第二号から第四号までの規定により、連合会が清算人又は基金から提出を受けた事項
三 基金が老齡年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において、支給すべきこととなる老齡年金給付の額は、前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。
一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」といふ。）を使用する方法として、送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法
ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面により通知すべき事項を電気通信回線を通じて受信者の閱覽に供し、当該受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法
二 電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式

二百六十五條の規定による年金給付等積金の交付は、前項に定めらるる時、連合会が清算人又は基金から提出を受けた事項
三 基金が老齡年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において、支給すべきこととなる老齡年金給付の額は、前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。
一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」といふ。）を使用する方法として、送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法
ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面により通知すべき事項を電気通信回線を通じて受信者の閱覽に供し、当該受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法
二 電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式

項一第四の四の條第二十七第	
<p>定により連合に交付されたる一時金を算定するに關する事項は、前項に規定する事項に關する事項を基金に提出することによるものとする。一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号 二 第六十六條第二号から第四号までの規定により、連合会が清算人又は基金から提出を受けた事項 三 基金が老齡年金給付の支給に關する権利義務を承継した場合において、支給すべきこととなる老齡年金給付の額は、前項の規定による提出は、次に掲げる方法のいずれかにより行うものとする。 一 電子情報処理組織（送信者の使用に係る電子計算機と、受信者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの（以下「電子情報処理組織を使用する方法」といふ。）を使用する方法として、送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法 ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面により通知すべき事項を電気通信回線を通じて受信者の閱覽に供し、当該受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法 二 電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式</p>	<p>た基金の加入員であつた期間（以下「算定基礎期間等」といふ。） 平成二十五年改正法附則第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十五條の二第一項</p>

項二第四の四の条第二十七第			項一第五の四の条第二十七第			項二第六の四の条第二十七第			項一第六の四の条第二十七第		
法			令			令			令		
類又はこれらの事項を記録した磁気ディスクを、確定給付企業年金法第二十			令第五十二の五の第三項			法第六百第三			法第六百第三		
類又はこれらの事項を記録した磁気ディスクを、確定給付企業年金法第二十			令第五十二の五の第三項			法第六百第三			法第六百第三		
<p>類又はこれらの事項を記録した磁気ディスクを、確定給付企業年金法第二十</p>			<p>令第五十二の五の第三項</p>			<p>法第六百第三</p>			<p>法第六百第三</p>		
<p>平成二十五年度改正法附則第五十九条第一項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第三項の規定によりなされる改正前厚生年金保険法</p>			<p>平成二十六年経過措置政令第六十二條第一項又は平成二十六年経過措置政令第六十五條第二項の規定によりなされる改正前厚生年金基金令第五十二條の五の第三項</p>			<p>平成二十五年改正法附則第五十三條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第一項の規定によりなされる改正前厚生年金保険法第六十五條第三項</p>			<p>平成二十五年改正法附則第五十三條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第一項の規定によりなされる改正前厚生年金保険法第六十五條第三項</p>		
<p>企業型記録関連連運管理機関等又は国民年金基金連合会に対し、当該中途退却者等に係る次の各号に掲げる事項を記載し、若しくは記録した書面若しくは電磁的記録媒体を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供する</p>			<p>平成二十六年経過措置政令第六十二條第一項又は平成二十六年経過措置政令第六十五條第二項の規定によりなされる改正前厚生年金基金令第五十二條の五の第三項</p>			<p>平成二十五年改正法附則第五十三條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第一項の規定によりなされる改正前厚生年金保険法第六十五條第三項</p>			<p>平成二十五年改正法附則第五十三條第三項又は平成二十五年改正法附則第六十二條第一項の規定によりなされる改正前厚生年金保険法第六十五條第三項</p>		

項二第三の条四十七第				号一十第			
の十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四
の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四
の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四	の三十一の令第四

項四第三の条四十七第				項三第三の条四十七第			
の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五
の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五
の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五	の十二の令第五

条十六第	段前項四第則附				条七十七第及び項一第条五十七第
第二の三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三
第二の三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三
第二の三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三	法第三十三

第条一十二第るす用準ていおに項一第条四十七第	項一第条同るす用準ていおに項二第二の			
付たる給	付たる給	付たる給	付たる給	付たる給
付たる給	付たる給	付たる給	付たる給	付たる給
付たる給	付たる給	付たる給	付たる給	付たる給

<p>号一第項一第条一十二第るす用準ていおに項一第条四十七第</p>	<p>項一</p>
<p>加入員 遺族給付金 (令第二十 十六條第 一項に規 定する遺 族給付金 を以て同 じ。)</p>	<p>基礎年金番号</p>
<p>基金中途脱退者(平成二十五 年改正法附則第四十條第一 項に規定する基金中途脱 退者をいう。以下同じ。)及 び解散基金加入員(平成二十 五年改正法附則第三十六條第 一項に規定する解散基金加入 員をいう。以下同じ。)の死 亡を支給理由として支給する 一時金たる給付</p>	<p>れた改正前厚生年金保険法第 百六十二條第二項の規定によ り支給される死亡を支給理由 とする年金たる給付又は一時 金たる給付をいう。)及び連 合会障害給付金(平成二十五 年改正法附則第四十四條第三 項の規定により支給される存 続連合会障害給付金及び平成 二十五年改正法附則第六十一 條第四項の規定によりなおそ の効力を有するものとされた 改正前厚生年金保険法第六十 二條第二項の規定により支 給される障害を支給理由とす る年金たる給付又は一時金た る給付をいう。)を除く。</p>

<p>二第るす用準ていおに項一第条四十七第</p>	<p>号三第項一第条一十二第るす用準ていおに項一第条四十七第</p>
<p>加入員 番号 次の各 号</p>	<p>令 遺族給 付金の 基金中途脱退者及び解散基金 加入員の死亡を支給理由とし て支給する一時金たる給付の 公的年金制度の健全性及び信 頼性の確保のための厚生年金 保険法等の一部を改正する法 律の施行に伴う経過措置に関 する政令(平成二十六年政令 第七十四号。以下「平成二十 六年経過措置政令」という。) 第四十九條第二項の規定によ りなおその効力を有するもの とされた公的年金制度の健全 性及び信頼性の確保のための 厚生年金保険法等の一部を改 正する法律の施行に伴う関係 政令の整備等に関する政令 (平成二十六年政令第七十三 号)第一条の規定による廃止 前の厚生年金基金令(以下 「廃止前厚生年金基金令」と いう。)第五十四條第一項に おいて準用する廃止前厚生年 金基金令</p>
<p>基礎年金番号</p>	<p>次の各号(生年月日について 、連合会が住民基本台帳法 (昭和四十二年法律第八十一 号)第三十條の九の規定によ り請求者に係る機構保存本人 確認情報(同法第三十條の七 第四項に規定する機構保存本 人確認情報をいう。以下同じ 。)の提供を受けることによ り確認が行われた場合にあつ ては、第二号を除く。)</p>

<p>項一第条四十七第</p>	<p>号二第項二第条一十二第るす用準ていおに項一第条四十七第</p>	<p>分部の外以記列号各項二第条一十</p>
<p>抄本。</p>	<p>抄本 及び 区長 抄本又は総合区長 の区長を含むものとし、 区長又は総合区長 抄本その他の生年月日を証す る書類</p>	<p>抄本 抄本その他の書類。</p>

<p>三第項三第条一十二第るす用準ていおに項一第条四十七第</p>	<p>号三第項二第条一十二第るす用準ていおに</p>
<p>令</p>	<p>平成二十六年経過措置政令第 四十九條第二項の規定により なおその効力を有するものと された廃止前厚生年金基金令 第五十四條第一項において準 用する廃止前厚生年金基金令</p>

第 四 十 七 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 四 十 七 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 四 十 七 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 四 十 七 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則
及 び 最 低 積 立 金 額 等 につ いて 示 した 細 則	第 三 十 九 条 第 一 項	平 成 二 十 六 年 経 過 措 置 政 令 第 四 十 九 条 第 二 項 の 規 定 に よ り な お そ の 効 力 を 有 す る も の と さ れ た 廃 止 前 厚 生 年 金 基 金 令 第 五 十 二 条 の 七 第 一 項 の 明 細 を 示 し た 書 類 及 び 共 同 運 用 経 理 に 係 る	平 成 二 十 六 年 経 過 措 置 政 令 第 四 十 九 条 第 二 項 の 規 定 に よ り な お そ の 効 力 を 有 す る も の と さ れ た 廃 止 前 厚 生 年 金 基 金 令 第 五 十 四 条 第 一 項 に お いて 準 用 す る 廃 止 前 厚 生 年 金 基 金 令

第 四 十 七 条 第 一 項	第 八 十 四 条 第 一 項 及 び 第 二 項	第 四 十 七 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 七 十 四 条
業 務 経 理	福 祉 事 業 経 理、 継 続 投 資 教 育 事 業 経 理、 共 済 経 理 又 は 業 務 経 理	別 途 積 立 金	未 収 掛 金 及 び 未 収 徴 収 金
		そ れ ぞ れ 別 途 積 立 金	未 収 徴 収 金
		年 金 経 理 等	年 金 経 理 等

第 三 十 五 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 九 十 四 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則
第 一 十 八 条 第 一 項	第 一 十 八 条 第 一 項
平 成 二 十 五 年 改 正 法 附 則 第 三 十 八 条 第 一 項 の 規 定 に よ り な お そ の 効 力 を 有 す る も の と さ	厚 生 労 働 大 臣

第 五 十 五 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則	第 四 十 五 条 第 一 項 に 関 する 用 意 準 則
事 項 (連 合 会 に 委 託 した 場 合 に は、 第 二 号 に 掲 げ る 事 項)	管 轄 地 方 厚 生 局 長 等
第 七 十 六 条 第 一 項	加 入 員
平 成 二 十 五 年 改 正 法 附 則 第 三 十 八 条 第 一 項 の 規 定 に よ り な お そ の 効 力 を 有 す る も の と さ れ た 改 正 前 厚 生 年 金 保 険 法 第 百 七 十 六 条 第 一 項	基 金 中 途 脱 退 者 若 し く は 解 散 基 金 加 入 員 厚 生 労 働 大 臣

五第るす用準ていおに項一第条四十七第	項二第条五十五第るす用準ていおに項一第条四十七第	項一
法第七十六 項二	管轄地 方厚生 局長等	管轄地 方厚生 局長等
、平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりな おその効力を有するものと された改正前厚生年金保険法 第百六十四條において準用す る改正前厚生年金保険法	厚生労働大臣	厚生労働大臣

項一第条四十七第	項五第条五十五第るす用準ていおに項一第条四十七第	項四第条五十
法二 通	管轄地 方厚生 局長等	管轄地 方厚生 局長等
一通 平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりな おその効力を有するものと された改正前厚生年金保険法 第百六十四條第三項において準 用する改正前厚生年金保険法	厚生労働大臣	厚生労働大臣

一第条四十七第	項一第条一十六第るす用準ていおに項一第条四十七第	条六十五第るす用準ていおに
第二 十 五 条	法第百 三十四 条	年金給 付等積 立金
第七十四條第一項において準 用する第二十五條	平成二十五年改正法附則第五 十條第一項及び平成二十五 年改正法附則第三十八條第一 項の規定によりな おその効力を有するものと された改正前厚 生年金保険法第百六十三條	年金給付等積立金及び積立金

に項一第条四十七第	項一第条三十六第るす用準ていおに項一第条四十七第	条二十六第るす用準ていおに項
法第百 十八條 第二項	代議員 會長等	厚生勞 働大臣 若しく は地方 厚生局
平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりな おその効力を有するものと された改正前厚生年金保険法 第百五十六條第二項	評議員會	厚生労働大臣

二の条四十六第るす用準ていおに項一第条四十七第 項二第条三十六第るす用準ていお

<p>法第百三十六 第一項 第四号</p>	<p>平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十四條第三項において準用する改正前厚生年金保険法第百三十六條の第三項第四号二</p>	<p>年金給付等積立金</p>	<p>法第百二十條の三第一項</p>
<p>法第百三十六 第一項 第四号</p>	<p>平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十四條第三項において準用する改正前厚生年金保険法第百三十六條の第三項第四号二</p>	<p>年金給付等積立金及び積立金</p>	<p>法第百二十條の三第一項 おその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百五十八條の三第一項</p>

項一第条五十六第るす用準ていおに項一第条四十七第

<p>法第百三十六 第一項 第四号</p>	<p>令第四十四條</p>	<p>平成二十六年経過措置政令第四十九條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第五十四條第一項において準用する廃止前厚生年金基金令第四十四條</p>	<p>法第百三十六 第一項 第四号</p>
<p>法第百六十一 條第一 項に規 定する 責任準 備金に 相当す る額</p>	<p>令第三十九條 の三第 二項第 一号</p>	<p>平成二十五年改正法附則第八條に規定する責任準備金相当額</p>	<p>平成二十五年改正法附則第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百六十四條第三項において準用する改正前厚生年金保険法第百三十六條の第三項第四号イ</p>

二の条六十六第び及項二第条五十六第るす用準ていおに項一第条四十七第

<p>2 存続連合会については、改正前確定拠出年金法施行規則第十五條第一項（第十二号に係る部分に限る。）、第二十一條第九号、第二十六條第一項（第五号に係る部分に限る。）、第三十條第二項（第二号及び第三号に係る部分に限る。）及び第五十六條第一項（第十二号に係る部分に限る。）の規定は、なおその効力を有する。この場合において、次の表の上欄に掲げる改正前確定拠出年金法施行規則の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。</p>	<p>令 平成二十六年経過措置政令第四十九條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第五十四條第一項において準用する廃止前厚生年金基金令</p>
---	---

号二第項二第条十三第 号五第項一第条六十二第 号二十第項一第条五十第

<p>年金給付等積立金（厚生年金保険法第百六十五條第五項に規定する年金給付等積立金）</p>	<p>厚生年金保険法第百四十四條の六第四項若しくは第百六十五條の三第四項又は確定給付企業年金法第百十七條の二第四項若しくは</p>	<p>事項 算入された期間</p>	<p>法第五十四條の二第一項</p>
<p>年金給付等積立金等（平成二十五年改正法附則第五十五條第一項に規定する年金給付等積立金等）</p>	<p>平成二十五年改正法附則第五十五條第一項に規定する年金給付等積立金等</p>	<p>事項（当該企業型記録関連業務に係る事項に限る。） 算入された期間並びに当該算入された期間の開始年月及び終了年月</p>	<p>公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年改正法第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。）附則第三十八條第三項の規定により読み替えられた法第五十四條の二第一項</p>

第十三条第二項第三号

同法第六十條の第二項	平成二十五年改正法附則第四十二條第二項の若しくは平成二十五年改正法附則第六十一條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十條の第二項
厚生年金基金脱退一時金相当額	平成二十五年改正法附則第四十條第一項第一号に規定する基金脱退一時金相当額
同法第六十一條第一項	平成二十五年改正法附則第四十三條第一項若しくは平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第一項
厚生年金基金の	平成二十五年改正法附則第三十條第十二号に規定する厚生年金基金の
確定給付企業年金法第五十九條	平成二十五年改正法附則第五十七條第一項
又は同法第九十一條の第三項	平成二十五年改正法附則第四十七條第一項若しくは平成二十五年改正法附則第六十三條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の第三項第一項

第十五条第六項第二号		加入者期間	加入者期間又は平成二十五年改正法附則第三十八條第三項の規定により読み替えて適用する確定拠出年金法第五十四條の五第二項の規定により存続連合会（平成二十五年改正法附則第三十條第三号に規定する存続連合会をいう。）に移換された同項に規定する個人別管理資産の算定の基礎となつた期間
算入された期間並びに当該算入された期間の開始年月及び終了年月	事項（当該個人型記録関連連営管理機関の行う記録関連業務に係る事項に限る。）	加入された期間	第七十四條の二
事項	事項	加入された期間	第七十四條の二

第十五條第一項の五第二項	若しくは第五十四條の五第二項	、公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を厚修正する法律（平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」といふ。）附則第三十八條第三項の規定により読み替えて適用する確定拠出年金法第五十四條の五第二項	企業年金連合会	企業年金連合会	存続連合会	存続連合会	存続連合会	令第二十六條の二
第十五條第二項	若しくは第五十四條の五第二項	、平成二十五年改正法附則第三十八條第三項の規定により読み替えて適用する確定拠出年金法第五十四條の五第二項	企業年金連合会	企業年金連合会	存続連合会	存続連合会	存続連合会	令第二十六條の二

第五十條の五第二項	若しくは第五十四條の五第二項	り読み替えて適用する令第二十六條の二	企業年金連合会	存続連合会	存続連合会	存続連合会	令第二十九條第三号
第六十條第一項及び第二項	企業年金連合会	存続連合会	存続連合会	存続連合会	存続連合会	令第二十九條第三号	令第二十九條第三号
第四十九條（準用規定）	確定給付企業年金法施行規則第三十條、第三十二條の二、第三十三條から第三十六條まで、第四十條の十七及び第四十條の十九の規定は存続連合会が支給する給付について、同令第四十條の十五、第四十條の十六、第四十條の十八及び第四十條の二十三から第四十條の二十六までの規定は存続連合会に係る移換金について、それぞれ準用する。この場合において、次の表の上欄に掲げる同令の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句に読み替へるものとする。						

項一第三十二の条四百第

第五項	項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項の存続連合会遺族給付金又は遺族給付金	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項

第五項	項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項の存続連合会遺族給付金又は遺族給付金	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項
法第九十一条	平成二十五年改正法附則第四十九條第六項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第五項	法第九十一条	平成二十五年改正法附則第五十五條第一項若しくは第五十八條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前条の第四第一項

第五十二條	第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二
第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二
第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二
第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二	第九十一条の二

事項を記録した電磁的記録媒体を含む。を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供することによって行うものとする。

一 氏名、性別、生年月日、住所及び基礎年金番号

二 平成二十五年改正法附則第四十二條第一項の規定により移換を申し出る基金脱退一時金相当額及びその算定の基礎となつた期間

三 加入員の資格の取得及び喪失の年月日

四 平成十五年四月一日以前の加入員たる被保険者であつた期間の報酬標準給与の月額及び被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であつた期間の標準報酬月額

五 平成十五年四月一日以後の加入員たる被保険者であつた期間の報酬標準給与の月額及び

第五十二条 平成二十五年改正法附則第四十三條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第四項の規定による申出は、存続連合会に対し、当該解散基金加入員に係る次の各号に掲げる事項を記載した申出書（これらの事項を記録した電磁的記録媒体を含む。）を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供することによって行うものとする。

一 氏名、性別、生年月日、住所及び基礎年金番号

二 平成二十五年改正法附則第四十三條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第四項の規定により移換又は交付を申し出る残余財産の額

三 解散基金加入員の資格の取得及び喪失の年月日

四 平成十五年四月一日前の加入員たる被保険者であつた期間の報酬標準給与の月額及び被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であつた期間の標準報酬月額

五 平成十五年四月一日以後の加入員たる被保険者であつた期間の報酬標準給与の月額及び

賞与標準給与の額並びに被保険者の種別ごとの当該加入員たる被保険者であった期間の標準報酬月額及び標準賞与額

2 前項の規定は、平成二十五年改正法附則第四十四條第一項及び平成二十五年改正法附則第六十一條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十二條第一項の規定による申出について準用する。この場合において、前項中「解散基金加入員」とあるのは、「改正前厚生年金保険法第四十七條第四項又は平成二十五年改正法附則第三十四條第四項に規定する者」と読み替えるものとする。

第五十三條 (給付の算定に関する基準)

平成二十六年経過措置政令第五十三條の規定、平成二十六年経過措置政令第六十四條第四項、第六項若しくは第八項の規定によりなおその効力を有するものとされた廃止前厚生年金基金令第五十二條の二の規定又は平成二十六年経過措置政令第六十六條第二項、第四項、第六項若しくは第八項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法施行令第六十五條の二の規定による給付の額の算定に当たって用いられる予定利率及び予定死亡率は、年金給付等積立金(平成二十五年改正法附則第六十條に規定する年金給付等積立金をいう。以下同じ)又は積立金(平成二十五年改正法附則第六十條に規定する積立金をいう。第六十一條において同じ)の運用収益及び存続連合会が給付の支給に関する義務を負っている基金中途脱退者、解散基金加入員等、確定給付企業年金中途脱退者(平成二十五年改正法附則第四十條第一項第三号に規定する確定給付企業年金中途脱退者をいう。以下同じ)、終了制度加入者等(改正後確定給付企業年金法第八十九條第六項に規定する終了制度加入者等をいう。第五十四條の二第一項において同じ。)又は企業型年金加入者であった者(平成二十五年改正法附則第四十九條の二第一項に規定する企業型年金加入者であった者をいう。次条第二項及び第五十四條の二第一項において同じ。)の死亡の状況に係る予測に基づき合理的に定められたものでなければならない。

2 平成二十五年改正法附則第四十二條第三項、第四十三條第三項、第四十六條第三項、第四十七條第三項若しくは第四十九條の二第一項の規定により存続連合会が支給する存続連合会老齡

給付金若しくは存続連合会遺族給付金の額、平成二十五年改正法附則第四十四條第三項若しくは第四十八條第三項の規定により存続連合会が支給する存続連合会障害給付金若しくは存続連合会遺族給付金の額又は平成二十五年改正法附則第四十五條第三項若しくは第四十九條第三項の規定により存続連合会が支給する存続連合会遺族給付金の額は、それぞれ当該給付の原資となる平成二十五年改正法附則第四十二條第三項、第四十三條第三項、第四十四條第三項、第四十五條第三項、第四十六條第三項、第四十七條第三項、第四十八條第三項、第四十九條第三項又は第四十九條の二第一項の移換金の額から事務費を控除した額が零以下である場合には、零とする。

3

平成二十五年改正法附則第六十一條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十條の二第三項の規定により存続連合会が老齡年金給付の額に計算する額若しくは支給する一時金たる給付の額、平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第五項の規定により存続連合会が老齡年金給付の額に計算する額若しくは支給する一時金たる給付の額又は平成二十五年改正法附則第六十一條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十二條第二項の規定により存続連合会が支給する死亡若しくは障害を支給理由とする年金たる給付若しくは一時金たる給付の額は、それぞれ当該給付の原資となる平成二十五年改正法附則第六十一條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十條の二第三項、平成二十五年改正法附則第六十一條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十一條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十一條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第六十二條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第九十一條の二第三項若しくは平成二十五年改正法附則第六十三條第二項の規定によりなおその効力を有するもの

4 平成二十五年改正法附則第六十三條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の二第三項若しくは平成二十五年改正法附則第六十三條第二項の規定によりなおその効力を有するもの

とされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の三第三項の規定により存続連合会が支給する老齡給付金若しくは遺族給付金の額、平成二十五年改正法附則第六十三條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の四第三項の規定により存続連合会が支給する障害給付金若しくは遺族給付金の額又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の五第三項の規定により存続連合会が支給する遺族給付金の額は、それぞれ当該給付の原資となる平成二十五年改正法附則第六十三條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の二第三項、平成二十五年改正法附則第六十三條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の三第三項、平成二十五年改正法附則第六十三條第三項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の四第三項又は平成二十五年改正法附則第六十三條第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第九十一條の五第三項の移換金の額から事務費を控除した額が零以下である場合には、零とする。

(中途脱退者等への説明義務)

第五十四條 平成二十六年経過措置政令第五十九條の規定により存続連合会が基金中途脱退者又は確定給付企業年金中途脱退者に基金脱退一時金相当額又は確定給付企業年金脱退一時金相当額(平成二十五年改正法附則第四十條第一項第三号に規定する確定給付企業年金脱退一時金相当額をいう。以下同じ)の移換に關して必要な事項について説明するときは、平成二十六年経過措置政令第五十六條第一項(同条第二項において準用する場合を含む。)の規定による基金脱退一時金相当額又は確定給付企業年金脱退一時金相当額の移換の申出の期限及び当該申出の手続その他基金脱退一時金相当額又は確定給付企業年金脱退一時金相当額の移換に係る判断に資する必要な事項を説明しなければならない。

(中途脱退者等への説明義務)

第五十五條 平成二十五年改正法附則第五十七條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第六十五條の五第一項の規定による積立金(平成二十五年改正法附則第五十七條第一項に規定する積立金をいう。以下この条から第五十七條までにおいて同じ)の移換の申出は、存続厚生年金基金に對し、当該老齡確定給付企業年金中途脱退者等(平成二十五年改正法附則第五十七條第一項に規定する老齡確定給付企業年金中途脱退者等をいう。以下同じ)に係る次の各号に掲げる事項を記載し、若しくは記録した書面若しくは電磁的記録媒体を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供することによって行うものとする。

- 一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号
- 二 積立金の額
- 三 算定基礎期間等(改正後確定給付企業年金法施行規則第四十條の二十二第一項第三号に規定する算定基礎期間等をいう。)

2 平成二十五年改正法附則第五十七條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正後確定給付企業年金法第六十五條の五第五

について説明するときは、当該個人別管理資産の移換の申出の期限及び当該申出の手続その他個人別管理資産の移換に係る判断に資する必要な事項を説明しなければならない。

(中途脱退者等の個人情報取扱い)

第五十四條の二 存続連合会は、その業務に關し、基金中途脱退者、解散基金加入員等、確定給付企業年金中途脱退者、終了制度加入者等及び企業型年金加入者であった者(以下この条において「中途脱退者等」という。)の氏名、性別、生年月日、住所その他の中途脱退者等の個人に關する情報を収集し、保管し、又は使用するに当たっては、その業務の遂行に必要な範囲内で当該個人に關する情報を収集し、保管し、及び使用するものとする。ただし、本人の同意がある場合その他正当な事由がある場合は、この限りでない。

2 存続連合会は、中途脱退者等の個人に關する情報を適正に管理するために必要な措置を講ずるものとする。

(存続連合会から存続厚生年金基金への積立金の移換の申出等)

第五十五條 平成二十五年改正法附則第五十七條第一項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第六十五條の五第一項の規定による積立金(平成二十五年改正法附則第五十七條第一項に規定する積立金をいう。以下この条から第五十七條までにおいて同じ)の移換の申出は、存続厚生年金基金に對し、当該老齡確定給付企業年金中途脱退者等(平成二十五年改正法附則第五十七條第一項に規定する老齡確定給付企業年金中途脱退者等をいう。以下同じ)に係る次の各号に掲げる事項を記載し、若しくは記録した書面若しくは電磁的記録媒体を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供することによって行うものとする。

- 一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号
- 二 積立金の額
- 三 算定基礎期間等(改正後確定給付企業年金法施行規則第四十條の二十二第一項第三号に規定する算定基礎期間等をいう。)

2 平成二十五年改正法附則第五十七條第五項又は平成二十五年改正法附則第六十四條第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正後確定給付企業年金法第六十五條の五第五

項の規定による通知は、次の各号に掲げる事項を記載した通知書を当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等に送付することによって行うものとする。

一 存続厚生年金基金が積立金の移換を受けた年月日及びその額

二 平成二十六年経過措置政令第六十二条第二項又は平成二十六年経過措置政令第六十七条第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法施行令第八十八条の三第一項の規定により当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等に支給する老齢年金給付の額の算定の基礎として用いられる期間

(存続連合会から存続厚生年金基金への移換する積立金の額)

第五十六条 存続連合会が平成二十五年改正法附則第五十七条第二項又は平成二十五年改正法附則第六十四条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第五十五条の五第二項の規定により存続厚生年金基金に移換する積立金の額は次の各号に掲げる額のいずれか高い額とする。

一 存続連合会の規約で定める方法により計算した額

二 存続連合会が移換を受けた当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等に係る確定給付企業年金脱退一時金相当額または残余財産(当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等に給付に充てる部分に限る。)

(脱退一時金相当額の算定の基礎となつた期間等の一部を老齢年金給付の額の算定の基礎として用いる際等の算定方法)

第五十七条 平成二十六年経過措置政令第六十二条第二項又は平成二十六年経過措置政令第六十七条第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法施行令第八十八条の三第一項の規定により、平成二十六年経過措置政令第六十二条第二項又は平成二十六年経過措置政令第六十七条第四項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法施行令第八十八条の三第一項第二号に掲げる期間(以下この条において「算定基礎期間等」という。)を当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等に支給する老齢年金給付の額の算定の基礎として用いるときは、次の各号に掲げる要件を満たす算定方法によらなければならない。

一 存続厚生年金基金の規約に照らして当該移換された積立金の額の算定の基礎となる期間を算定すること。ただし、算定された期間が算定基礎期間等を超える場合にあっては、当該算定基礎期間等とすること。

二 算定基礎期間等を合算しないこととする場合にあっては、存続厚生年金基金の加入員であつた期間が一年未満である者に限り、その旨を規約で定めること。

三 その他当該老齢確定給付企業年金中途脱退者等について不当に差別的なものでなく合理的な計算方法であると認められること。

(存続連合会に係る責任準備金相当額の一部の物納)

第五十八條 平成二十五年改正法附則第六十七条又は第七十三条の規定により存続連合会が改正前確定給付企業年金法第一百四十四条の規定の例により物納をする場合においては、存続連合会を解散厚生年金基金等(改正前確定給付企業年金法第一百三十三条第一項に規定する解散厚生年金基金等をいう。)とみなして、改正前確定給付企業年金法施行規則第三百三十一条から第三百三十四条までの規定の例による。

(存続連合会への事務委託)

第五十八條の二 厚生年金保険の実施者たる政府は、平成二十六年経過措置政令第三条第一項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第五十五条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前確定給付企業年金法第一百零二条の二第六項の規定により読み替えられた平成二十五年改正法附則第八八条の規定に基づき、存続厚生年金基金から現価相当額を徴収する場合において、当該徴収のために必要な事務及び厚生年金保険の実施者たる政府が支給する年金たる給付に係る事務(年金たる給付の支給に必要な記録の整理に関する事務を含む。)を存続連合会に行わせることができる。

(解散に伴う事務の引継ぎ等)

第五十九條 存続連合会が解散したときは、清算人は、機構に対し、遅滞なく、解散した日において存続連合会が給付の支給の義務を負つてゐる者につき、次の各号に掲げる事項を記載し、若しくは記録した書面若しくは電磁的記録媒体を提出し、又はこれらの事項を電子情報処理組織を使用する方法により提供しなければならぬ。

一 氏名、性別、生年月日及び基礎年金番号

二 存続連合会が給付の支給の義務を負つてゐる者の資格の取得及び喪失の年月日

三 平成二十五年改正法附則第七十二条において準用する平成二十五年改正法附則第八八条の規定により政府が徴収する額

2 前項の規定は、平成二十五年改正法附則第六十五条第一項の規定による認可を受けた場合について準用する。この場合において、前項中「解散した」とあるのは「平成二十五年改正法附則第六十五条第一項の規定による認可を受けた」と、「清算人」とあるのは「存続連合会」と、「附則第七十二条において準用する平成二十五年改正法附則第八八条」とあるのは「附則第六十六条」と読み替へるものとする。

(年金数理人の要件に関する経過措置)

第六十条 改正後確定給付企業年金法施行規則第一百零六条の二第一項の規定は、平成二十五年改正法附則第五十五条第一項又は第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第七十六条の二第二項の厚生労働省令で定める要件について準用する。

(平成二十五年改正法附則第七十五条第二項の年金たる給付又は一時金たる給付の算定に関する基準)

第六十一条 平成二十六年経過措置政令第七十三条の規定による年金たる給付若しくは一時金たる給付の額の算定に当たつて用いられる予定利率及び予定死亡率は、年金給付等積立金又は積立金の運用収益及び連合会が年金たる給付若しくは一時金たる給付の支給に関する義務を負つてゐる基金中途脱退者等(平成二十五年改正法附則第七十条第二項に規定する基金中途脱退者等をいう。)の死亡の状況に係る予測に基づき合理的に定めたものでなければならない。

(準用規定)

第六十二条 改正後確定給付企業年金法施行規則第三十条、第三十三条第一項及び第三十四条から第三十六条までの規定は、連合会が支給する平成二十五年改正法附則第七十五条第二項の年金たる給付又は一時金たる給付について準用する。この場合において、次の表の上欄に掲げる改正後確定給付企業年金法施行規則の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句に読み替へるものとする。

第三十條	令第二十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令(平成二十六年改正法第七十四号。以下「平成二十六年経過措置政令」という。)
第三十三條	令第三十三條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十四條	令第三十四條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十五條	令第三十五條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十六條	令第三十六條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十七條	令第三十七條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十八條	令第三十八條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第三十九條	令第三十九條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十條	令第四十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十一條	令第四十一條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十二條	令第四十二條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十三條	令第四十三條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十四條	令第四十四條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十五條	令第四十五條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十六條	令第四十六條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十七條	令第四十七條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十八條	令第四十八條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第四十九條	令第四十九條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十條	令第五十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十一條	令第五十一條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十二條	令第五十二條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十三條	令第五十三條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十四條	令第五十四條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十五條	令第五十五條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十六條	令第五十六條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十七條	令第五十七條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十八條	令第五十八條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第五十九條	令第五十九條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十條	令第六十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十一條	令第六十一條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十二條	令第六十二條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十三條	令第六十三條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十四條	令第六十四條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十五條	令第六十五條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十六條	令第六十六條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十七條	令第六十七條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十八條	令第六十八條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第六十九條	令第六十九條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十條	令第七十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十一條	令第七十一條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十二條	令第七十二條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十三條	令第七十三條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十四條	令第七十四條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十五條	令第七十五條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十六條	令第七十六條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十七條	令第七十七條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十八條	令第七十八條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第七十九條	令第七十九條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)
第八十條	令第八十條	公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律(平成二十五年法律第六十三号。以下「平成二十五年改正法」という。)

第百四十四号	積立金の運用	積立金の規定により連合会が積み立てるべき積立金を含む。以下同じ。の運用
第百四十四号の六第一項	第九十一条の十八第四項ただし書及び平成二十五年改正法附則第七十八條第二項	
第百四十四号の十第一号	業務内容	業務（平成二十五年改正法の規定により連合会が行う業務を含む。以下同じ。）の内容
第百四十四号の二十一において準用する第百十條第三項	年金經理及び業務並びに業務經理	厚生年金基金基本年金經理、厚生年金基金加算年金經理及び確定給付企業年金經理（以下単に「年金經理」という。）並びに業務經理

（平成二十六年経過措置政令第七十八條第一項の規定により読み替えられた厚生年金保険法施行令第四条の二十六第一号に規定する厚生労働省令で定める期間等）

第六十四條 次の各号に掲げる規定に規定する厚生労働省令で定める期間は、二十四月とする。

一 平成二十六年経過措置政令第七十八條第一項の規定により読み替えられた厚生年金保険法施行令（昭和二十九年政令第百十号）第四條の二十六第一号

二 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた健康保険法施行令（大正十五年勅令第二百四十三号）第六十三條第三号

三 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた船員保険法施行令（昭和二十八年政令第二百四十号）第三十四條第三号

四 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた厚生年金保険法施行令第四条の二十六第三号

五 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた子ども・子育て支援法施行令（平成二十六年政令第二百十三号）第三十五條第二項第三号

六 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた厚生年金保険の保険給付及び保険料の納付の特例等に関する法律施行令（平成十九年政令第三百八十二号）第三條第二号

七 平成二十六年経過措置政令第七十八條第一項の規定により読み替えられた厚生年金保険法施行令第四条の二十六第三号に規定する厚生労働省令で定める金額は、五千万円とする。

八 平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項に規定する厚生労働省令で定める徴収金は、次の各号に掲げる徴収金とする。

一 健康保険法（大正十一年法律第七十号）第五十八條第一項、第七十四條第二項及び第九十九條第二項（同法第百四十九條においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による徴収金

二 船員保険法（昭和十四年法律第七十三号）第四十七條、第五十五條第二項及び第七十一条第二項（同法第七十四條第三項において準用する場合を含む。）の規定による徴収金（機構への事務の委託）

第六十五條 平成二十六年経過措置政令第八十一条第一項第二号に規定する厚生労働省令で定める事務は、次の各号に掲げる事務とする。

一 平成二十五年改正法附則第十三條第一項（同項の規定により政府が当該自主解散型基金の設立事業所の事業主から徴収するものに限る。）、第二十二條第一項（同項の規定により政府が当該清算型基金の設立事業所の事業主から徴収するものに限る。）及び第三十一条第一項の規定による徴収金又は平成二十五年改正法附則第十六條第一項（平成二十五年改正法附則第二十三條及び第三十二條において準用する場合を含む。）の規定による加算金の徴収に係る事務（平成二十五年改正法附則第八十二條第二項の規定によりみなして適用する改正後厚生年金保険法第八十六條第一項の規定による督促、同条第二項の規定による督促の発行及び平成二十五年改正法附則第八十二條第二項の規定によりみなして適用する改正後厚生年金保険法第百條の十一第一項の規定による機構が行う収納の権限を行使する事務並びに平成二十五年改正法附則第八十二條第二項の規定によりみなして適用する

改正後厚生年金保険法第百條の四第一項第二十八号から第三十一号までに掲げる権限を行使する事務並びに平成二十五年改正法附則第八十二條第二項の規定によりみなして適用する改正後厚生年金保険法第百條の十第一項第三十一号及び第三十三号に掲げる事務を除く。）

二 平成二十五年改正法附則第十四條（平成二十五年改正法附則第二十三條及び第三十二條において準用する場合を含む。）の規定による納付計画の変更に係る事務（納付計画の変更の承認及び平成二十五年改正法附則第十四條第五項（平成二十五年改正法附則第二十三條及び第三十二條において準用する場合を含む。）の規定による納付の猶予並びに第二十五條第二項の規定による自主解散型納付計画等の変更の承認及び存続厚生年金基金の設立事業所の事業主が自主解散型納付計画等の承認を受けた日から平成二十五年改正法附則第十三條第一項又は第二十二條第一項の規定により政府が当該事業主から当該自主解散型納付計画等に基づき徴収金を徴収する日までの間に当該事業主から当該自主解散型納付計画等の変更の承認の申請があつた場合における当該申請の受理に係る事務を除く。）及び平成二十五年改正法附則第十五條（平成二十五年改正法附則第二十三條及び第三十二條において準用する場合を含む。）の規定による納付計画の承認の取消しに係る事務（納付計画の承認の取消し及び平成二十五年改正法附則第十五條第二項（平成二十五年改正法附則第二十三條及び第三十二條において準用する場合を含む。）の規定による納付の猶予の取消しを除く。）

三 平成二十五年改正法附則第五條第一項又は第三十八條第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた改正前厚生年金保険法第百七十三條の二の規定による情報の提供に係る事務（当該情報の提供を除く。）

四 平成二十五年改正法附則第六十九條第二項に規定する責任準備金相当額の徴収のために必要な事務及び厚生年金保険の実施者たる政府が支給する年金たる給付の支給に係る事務（当該徴収及び当該支給に係る決定並びに平成二十六年経過措置政令第七十一条第三項各号に掲げる事務を除く。）

第百四十四号	積立金の運用	積立金の規定により連合会が積み立てるべき積立金を含む。以下同じ。の運用
第百四十四号の六第一項	第九十一条の十八第四項ただし書及び平成二十五年改正法附則第七十八條第二項	
第百四十四号の十第一号	業務内容	業務（平成二十五年改正法の規定により連合会が行う業務を含む。以下同じ。）の内容
第百四十四号の二十一において準用する第百十條第三項	年金經理及び業務並びに業務經理	厚生年金基金基本年金經理、厚生年金基金加算年金經理及び確定給付企業年金經理（以下単に「年金經理」という。）並びに業務經理

第一條（施行期日）この省令は、平成二十五年改正法の施行の日（平成二十六年四月一日）から施行する。（子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律によりなお従前の例によるものとされた改正前の児童手当法に係る特例）

第五條 平成二十六年経過措置政令附則第二項の規定により読み替えられた同令第七十八條の規定に関する第六十四條第一項の規定の適用については、次の表の上欄に掲げる同項の規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句とする。

第六十三條	第六十三條第三号（同令附則第八條の規定により読み替えて適用される場合を含む。）
第三十四條第三号	第三十四條第三号（同令附則第八條の規定により読み替えて適用される場合を含む。）
第四條の二第三号	第四條の二第三号（同令附則第二項の規定により読み替えて適用される場合を含む。）
平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項	平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた子ども・子育て支援法施行令（平成二十六年政令第二百十三号）第三十五條第二項第三号
平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項	平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた子ども・子育て支援法施行令（平成二十六年政令第二百十三号）第三十五條第二項第三号
平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項	平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた子ども・子育て支援法施行令（平成二十六年政令第二百十三号）第三十五條第二項第三号

（平成二十六年経過措置政令第七十八條第二項の規定により読み替えられた子ども・子育て支援法施行令（平成二十六年政令第二百十三号）第三十五條第二項第三号）

1 この省令は、地方自治法の一部を改正する法律（平成二十六年法律第四十二号）の施行の日（平成二十八年四月一日）から施行する。

附則（平成二十八年一月四日厚生労働省令第一号）抄

（施行期日）

1 この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成二十八年三月二日厚生労働省令第三八号）抄

この省令は、平成二十八年四月一日から施行する。

附則（平成二十八年三月三十一日厚生労働省令第五六号）抄

（施行期日）

1 この省令は、平成二十八年四月一日から施行する。

附則（平成二十八年四月八日厚生労働省令第九〇号）抄

（施行期日）

1 この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成二十八年一〇月五日厚生労働省令第一五九号）抄

（施行期日）

1 この省令は、平成二十九年一月一日から施行し、第四条の規定による改正後の国民年金基金及び国民年金基金連合会の財務及び会計に関する省令第八条及び第十二条（これらの規定を同令第二十条において読み替えて準用する場合を含む。）の規定は、国民年金基金又は国民年金基金連合会の平成二十九年年度の予算から適用する。

（企業型年金加入者等原簿及び個人型年金加入者等原簿の作成及び保存に係る経過措置）

第二条 改正後確定拠出年金法施行規則第十五条

第一項第十一号及び第五十六條第一項第十一号並びに第二条の規定による改正後の公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令（平成二十六年厚生労働省令第二十号）

第十七条第三項の規定によりなおその効力を有するものとされ、同項の規定により読み替えて適用する同令第三条の規定による改正前の確定拠出年金法施行規則第十五条第一項第十二号及び第五十六條第一項第十二号の規定は、平成三十年一月一日以後に行われる法第五十四條（公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための

厚生年金保険法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第六十三号）附則第五条第三項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定による資産の移換又は法第五十四條の二（同項及び同法附則第三十八條第三項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）若しくは第七十四條の二（同法附則第五条第三項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定による脱退一時金相当額等の移換について適用する。

附則（平成二十八年一月二日厚生労働省令第一七五号）抄

（施行期日）

1 この省令は、平成二十九年一月一日から施行する。

附則（平成二十九年一月二日厚生労働省令第一三四号）抄

（施行期日）

1 この省令は、確定拠出年金法等の一部を改正する法律（平成二十八年法律第六十六号）附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日（平成三十年五月一日。以下「施行日」という。）から施行する。

附則（令和二年一月二日厚生労働省令第二一一号）抄

（施行期日）

1 この省令は、公布の日から施行する。

附則（令和三年八月二日厚生労働省令第一三五号）抄

（施行期日）

1 この省令は、令和四年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条、第三条、第五条及び第六条の規定 令和四年五月一日

二 第四条及び第七条の規定 令和四年十月一日

附則（令和四年三月三十一日厚生労働省令第六〇号）抄

（施行期日）

1 この省令は、令和四年十月一日から施行する。ただし、附則第六条の規定は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第五条 第四条の規定による改正後の公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令第十七条の二の規定は、施行日以後に開始する厚生年金保険法第二十三条の二第一項に規定する育児休業等について適用し、施行日前に開始した同項に規定する育児休業等については、なお従前の例による。

附則（令和五年一〇月六日厚生労働省令第一二九号）抄

（施行期日）

この省令は、国民年金基金令等の一部を改正する政令の施行の日から施行する。

附則（令和五年一月二日厚生労働省令第一六五号）抄

（施行期日）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（令和六年五月二四日厚生労働省令第八六号）抄

（施行期日）

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律附則第一条第十号に掲げる規定の施行の日（令和六年五月二十七日）から施行する。ただし、第六条中国民年金基金規則第十五条、第十九条の二第三項及び第六十三條の改正規定、第八条中確定給付企業年金法施行規則第八十九條の三、第九十六條の三第一項、第九十六條の七第一項、第九十四條の十五、第九十四條の十八第一項、第九十四條の二十一、第九十四條の二十三第一項及び第九十四條の二十四第一項の改正規定並びに第十一条中公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令第十七条第一項（同令第一条の規定による廃止前の厚生年金基金規則（昭和四十一年厚生省令第三十四号。以下「廃止前厚生年金基金規則」という。）第四十九條の三及び第四十九條の六の読替えに係る部分に限る。）、第四十七條第一項、第四十八條第一項（廃止前厚生年金基金規則第七十二條の四の三、第七十二條の四の四第一項及び第二項の読替えに係る部分に限る。）、第五十五條第一項及び第五十九條第一項の改正規定は、公布の日から施行する。